

平成23年度(4)

県政モニター アンケート報告書

テーマ「これからの環境保全の方向性について」

平成23年12月

も く じ

調査の概要	1
-------------	---

調査結果

1 環境に関する取組と行政の役割	3
2 C O P 10を契機とした生物多様性の保全への取組	15
3 環境学習・環境保全への取組	23
4 経済活動、企業活動、地域活動への支援	27
5 安心・安全への取組	37
6 自然、水辺とのふれあい	40
7 自由意見	46

質問と回答	51
-------------	----

調査の概要

1 調査のテーマ

これからの環境保全の方向性について

2 調査の趣旨

現在の環境問題は、ごみ問題を始めとする身近なものから、地球温暖化など人類の存続に関わるものまで多種多様となっています。

これらの課題の解決のためには、誰もが、環境への配慮という視点から、これまでの行動を見直し、資源循環を基調とする持続可能な社会を作り上げることが必要です。

こうした中、「生物多様性の保全」という地球規模の課題をテーマに生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が昨年10月に開催され、「新戦略計画・愛知目標」の採択、環境に対する県民意識の高まりなど大きな成果を残しました。

本県では、このCOP10の成果を継承・発展させ、県民の方々が、環境に対して配慮した持続可能な地域づくりを進めていきたいと考えています。

そこで、今回のアンケートでは、環境に対する意識・活動や、今後の環境行政の進め方などについて、県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

3 調査対象

県政モニター 496人（平成23年9月20日現在）

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	496人	100.0%	155人	188人	153人	
性 別	男 性	248	50.0	76	92	80
	女 性	248	50.0	79	96	73
年 代 別	20 代	77	15.5	27	26	24
	30 代	100	20.2	29	37	34
	40 代	88	17.7	28	33	27
	50 代	74	14.9	19	29	26
	60 代 以上	157	31.7	52	63	42

4 調査期間

平成23年9月1日から平成23年9月20日まで

5 調査方法

郵送・インターネット（選択）

6 回答者数

486人（回収率98.0%）

【記号・符号・用語の説明】

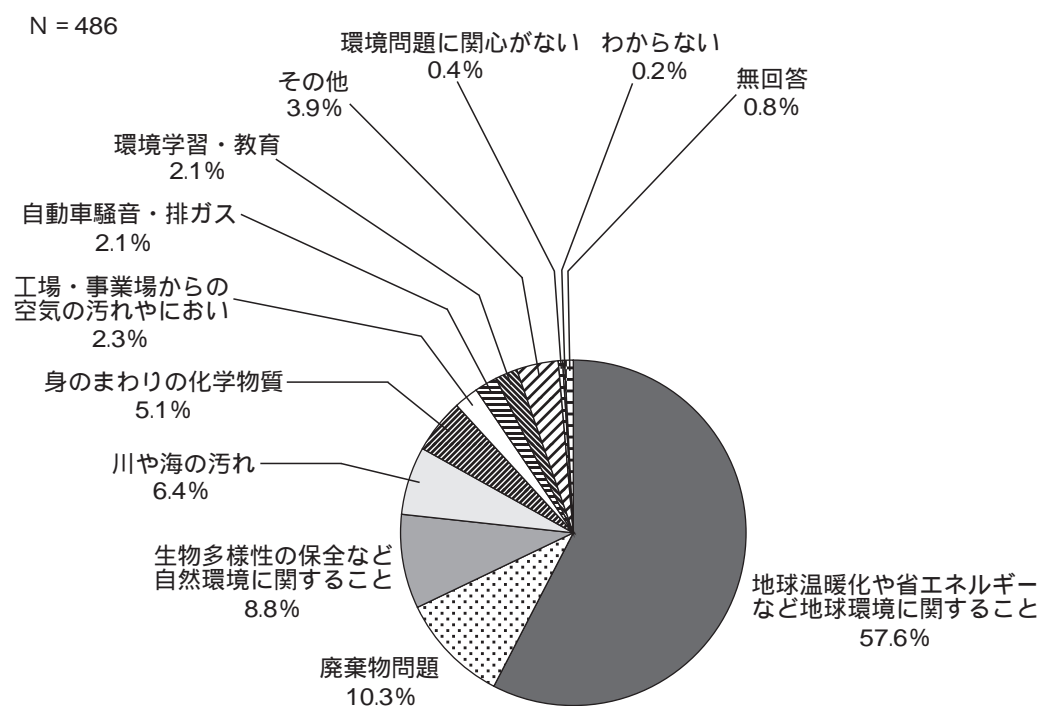
- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M. T. (Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) 回答が1つの質問であっても、小数第2位を四捨五入して割合を求めているため、合計が100%にならないことがある。

調査結果

1 環境に関する取組と行政の役割

問1 私たちの身の回りには、自動車の走行などに伴う大気汚染や騒音、生活排水による水質汚濁、廃棄物を始めとする日常生活における公害問題から、地球温暖化や生物多様性の保全など地球規模の問題まで、多様な環境問題が存在しています。

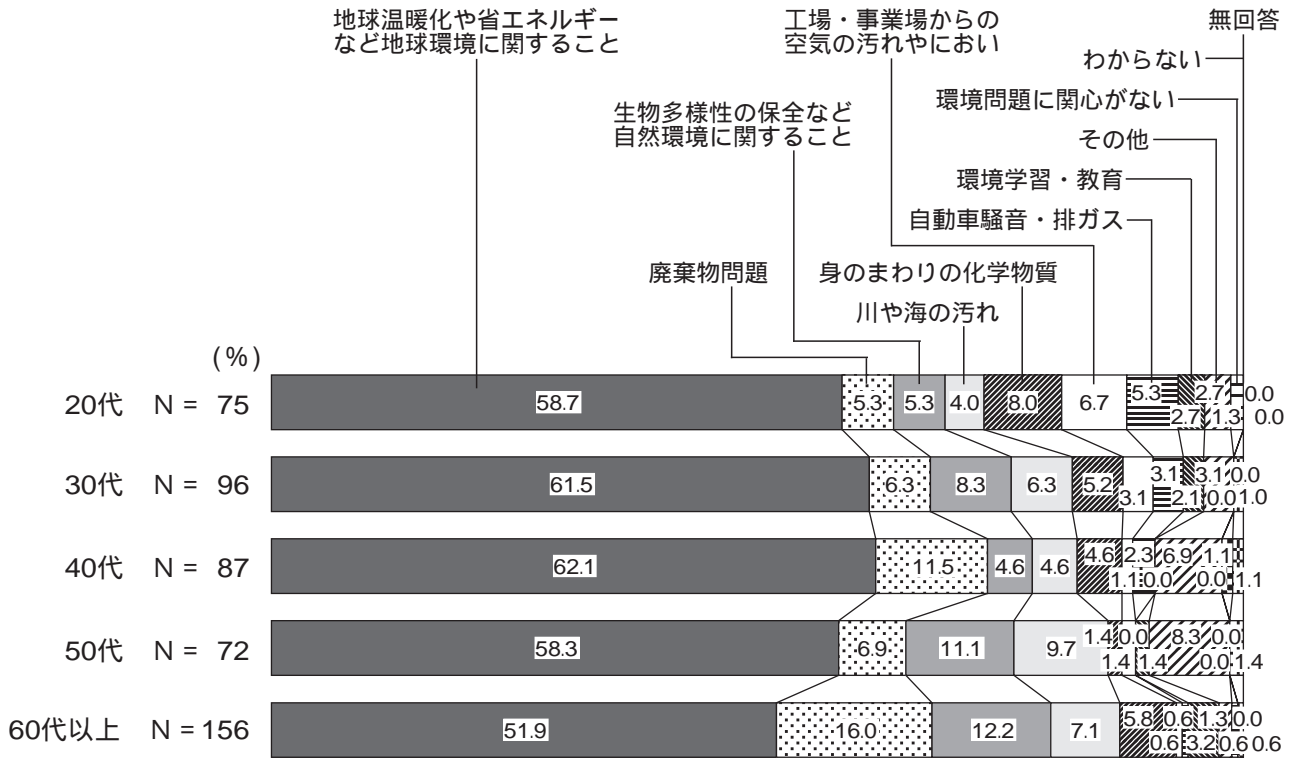
こうした状況の中、今あなたが最も関心のある環境問題は何ですか。(回答は1つ)



今あなたが最も関心のある環境問題は何か尋ねたところ、「地球温暖化や省エネルギーなど地球環境に関すること」が57.6%、「廃棄物問題」が10.3%、「生物多様性の保全など自然環境に関すること」が8.8%、「川や海の汚れ」が6.4%などとなっている。

年代別にみると、「地球温暖化や省エネルギーなど地球環境に関すること」と答えた人の割合は、全ての年代で50%を超え、幅広い関心の高さがうかがえる。

(年代別)



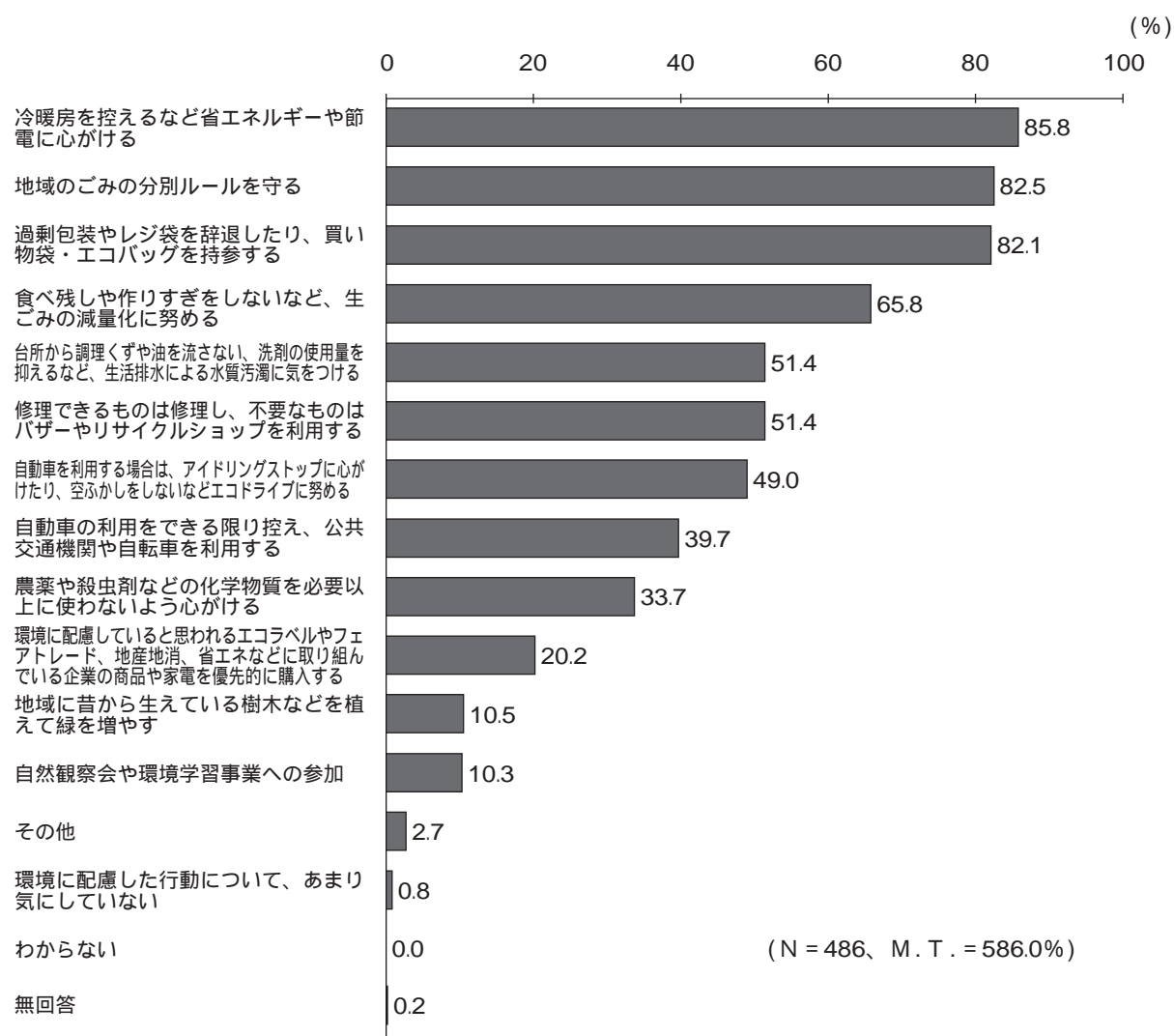
「地球温暖化や省エネルギーなど地球環境に関すること」に対して、各年代で5割以上の方が最も関心を持つと回答しています。また、全体でみると「廃棄物問題」は最も関心を持つと回答した人の割合が2番目に高く、「生物多様性の保全など自然環境に関すること」が3番目に高くなっていますが、年代別にみると、30代と50代で「生物多様性の保全など自然環境に関すること」が2番目に高くなっています。また、50代では、「川や海の汚れ」に最も関心を持つと回答した人の割合が3番目に多くなっています。

地球環境に関する課題から地域の環境保全まで県民の関心が及んでいることから、本県において今後も幅広い環境施策を展開していきたいと考えています。

(環境部環境政策課)

問2 あなたが、毎日の暮らしの中で環境に配慮するために、どのような取組をしていますか。

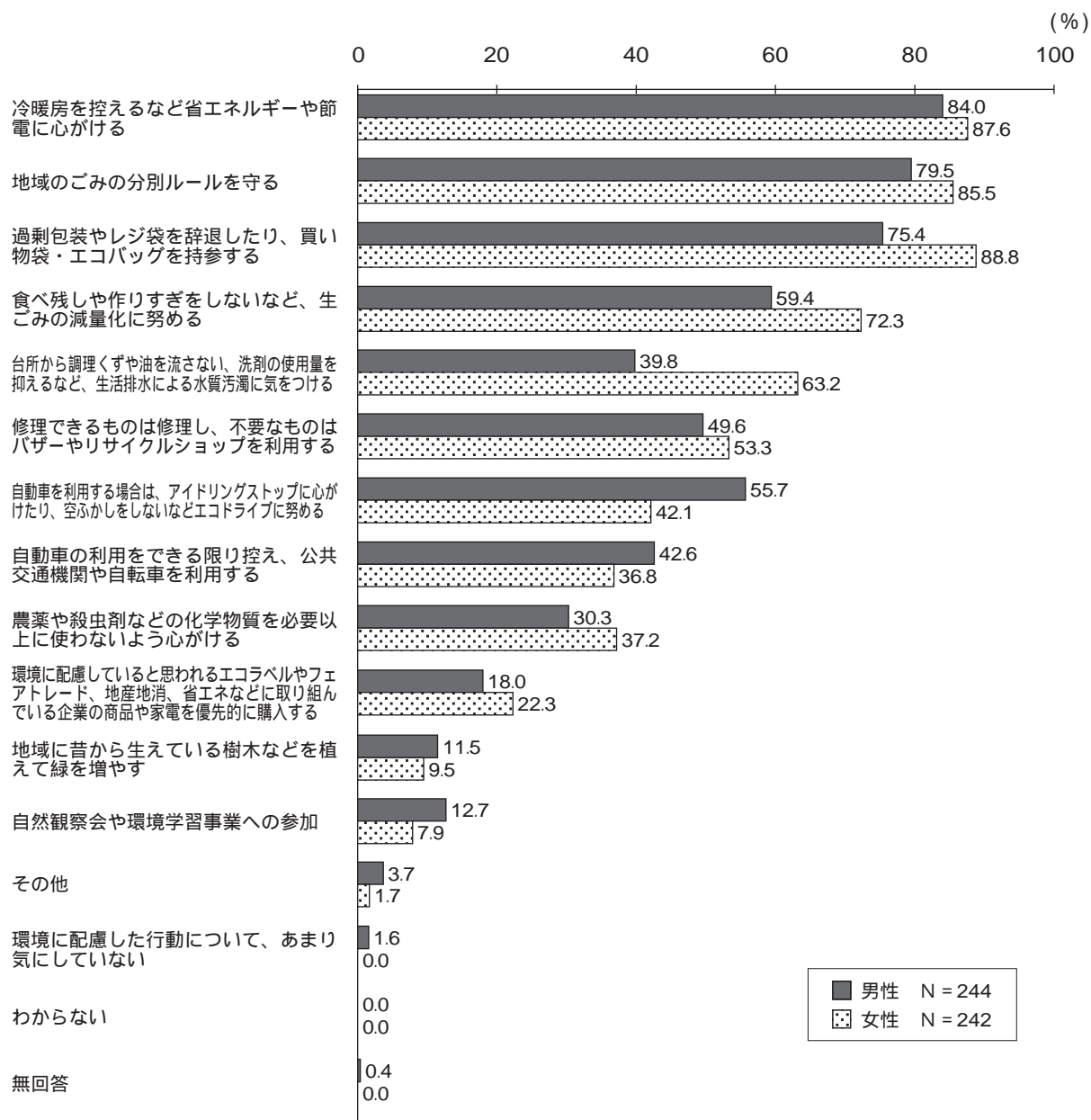
(回答はいくつでも)



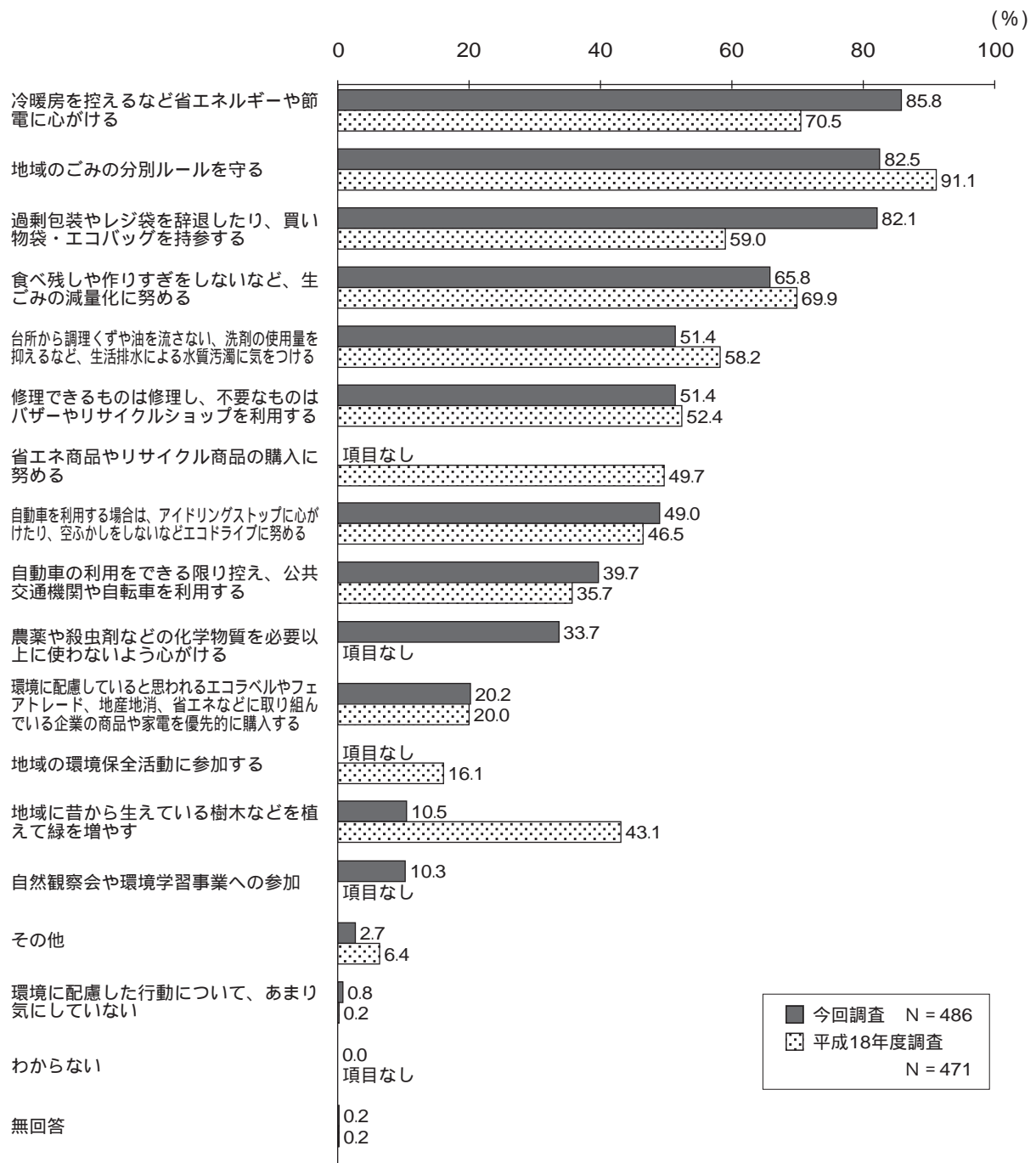
毎日の暮らしの中で環境に配慮するために、どのような取組をしているか尋ねたところ、「冷暖房を控えるなど省エネルギーや節電に心がける」が85.8%、「地域のごみの分別ルールを守る」が82.5%、「過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋・エコバッグを持参する」が82.1%と特に高く、「食べ残しや作りすぎをしないなど、生ごみの減量化に努める」が65.8%などとなっている。

男女別にみると、回答の多かった上位6項目について、いずれもそれらを選んだ割合は、男性より女性の方が高くなっており、毎日の暮らしの中での環境配慮の取組への関心の高さがうかがえる。

(男女別)



(毎日の暮らしの中で環境に配慮するための取組 (時系列比較))

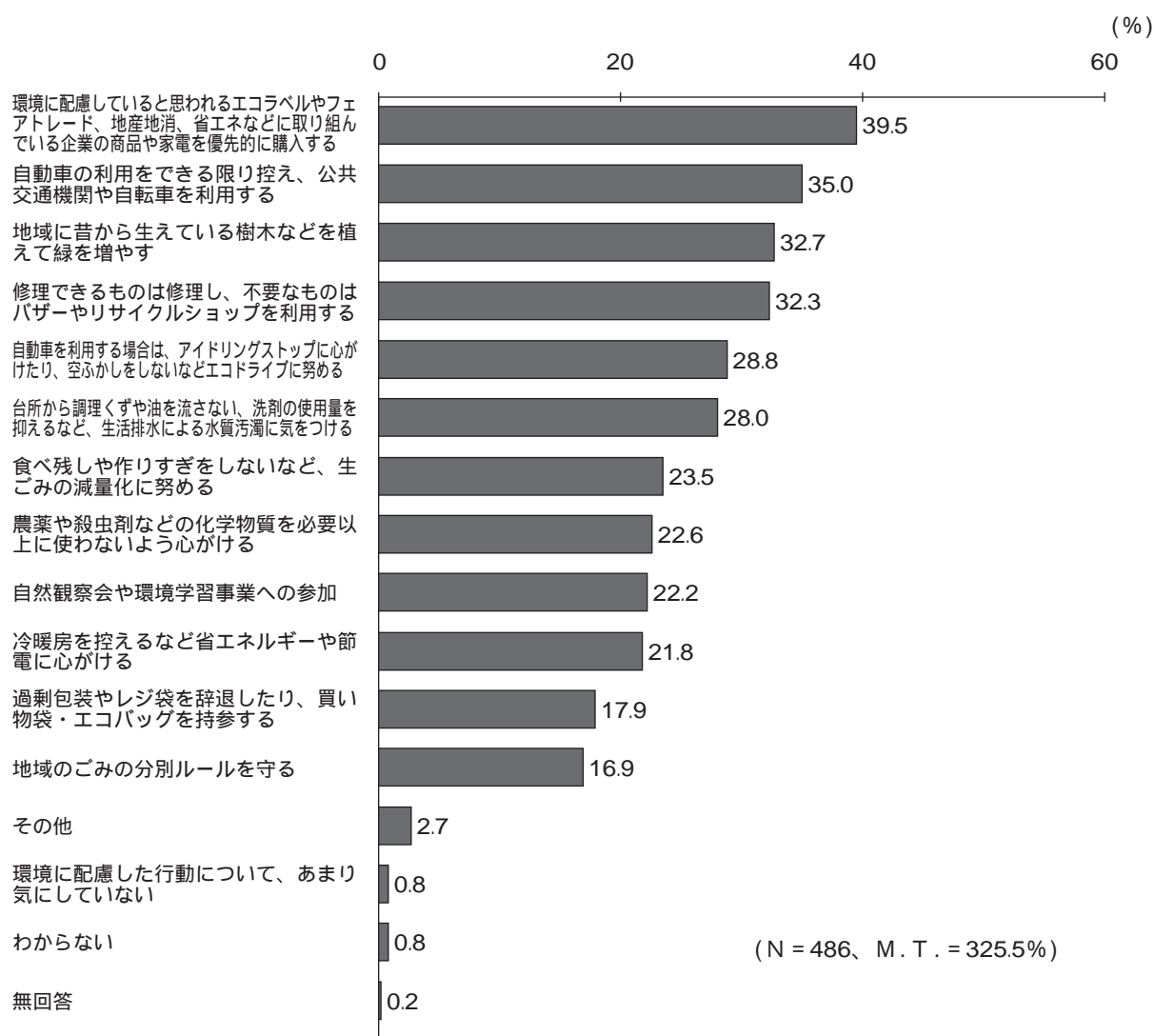


「過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋・エコバッグを持参する」と回答した人の割合は前回調査から20ポイント以上高くなっており、レジ袋等の辞退、エコバッグ等の持参が普及してきています。また、「冷暖房を控えるなど省エネルギーや節電に心がける」と回答した人の割合が前回調査から15ポイント以上高くなっていますが、今夏の省エネ・節電の取組に関する普及啓発効果もあり、省エネルギーや節電が意識的に実施されるようになったことが背景になっていると考えられます。

一人一人のこうした活動の積み重ねが環境保全活動には重要であることから、さらに広がりをもち、継続して行われるよう必要な施策を実施していきたいと考えています。

(環境部環境政策課)

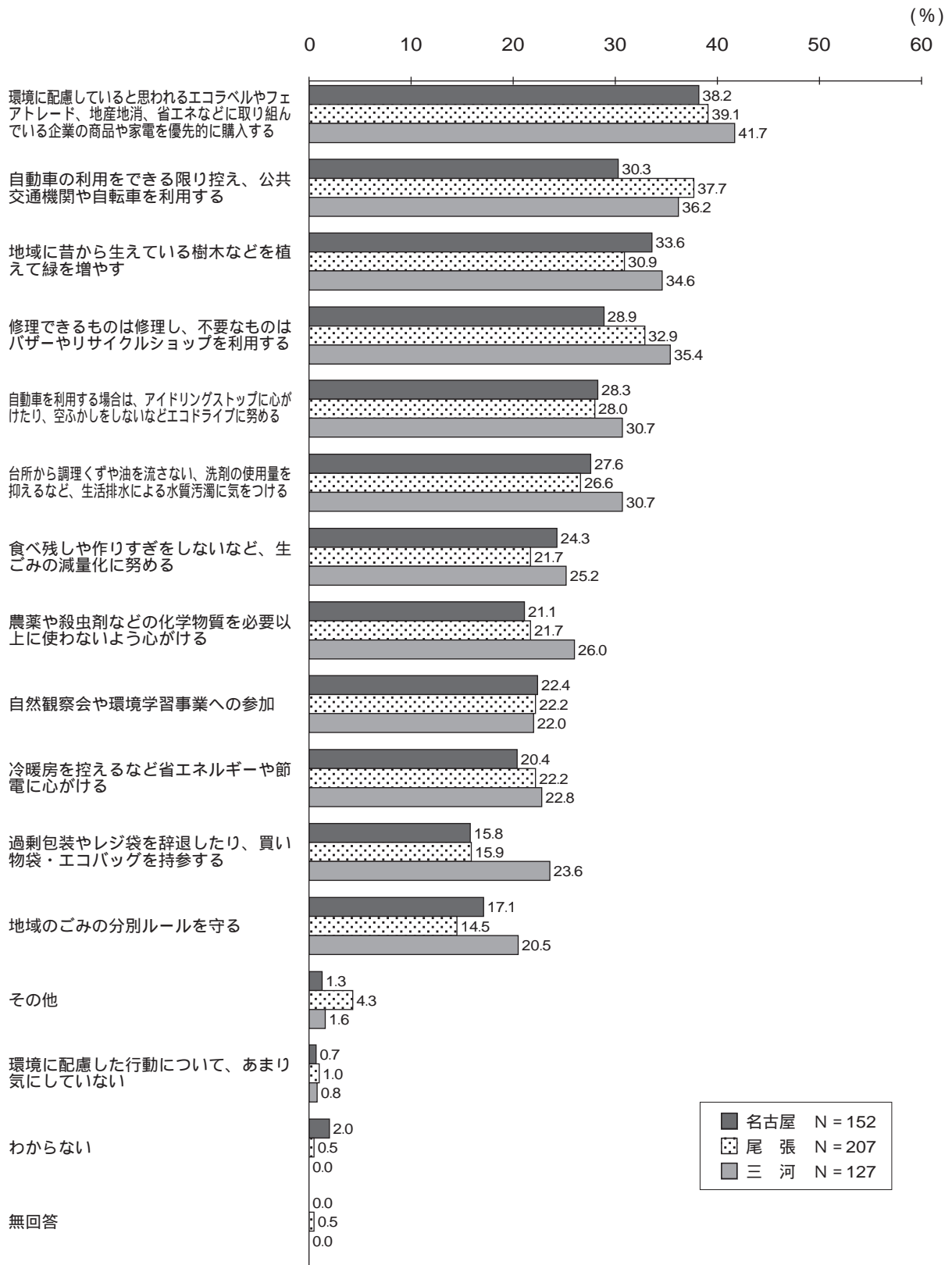
問3 問2で回答された取組以外に、あなたがこれから取り組もうと考えている、又は、取り組む必要があると思うものは何ですか。(回答はいくつでも)



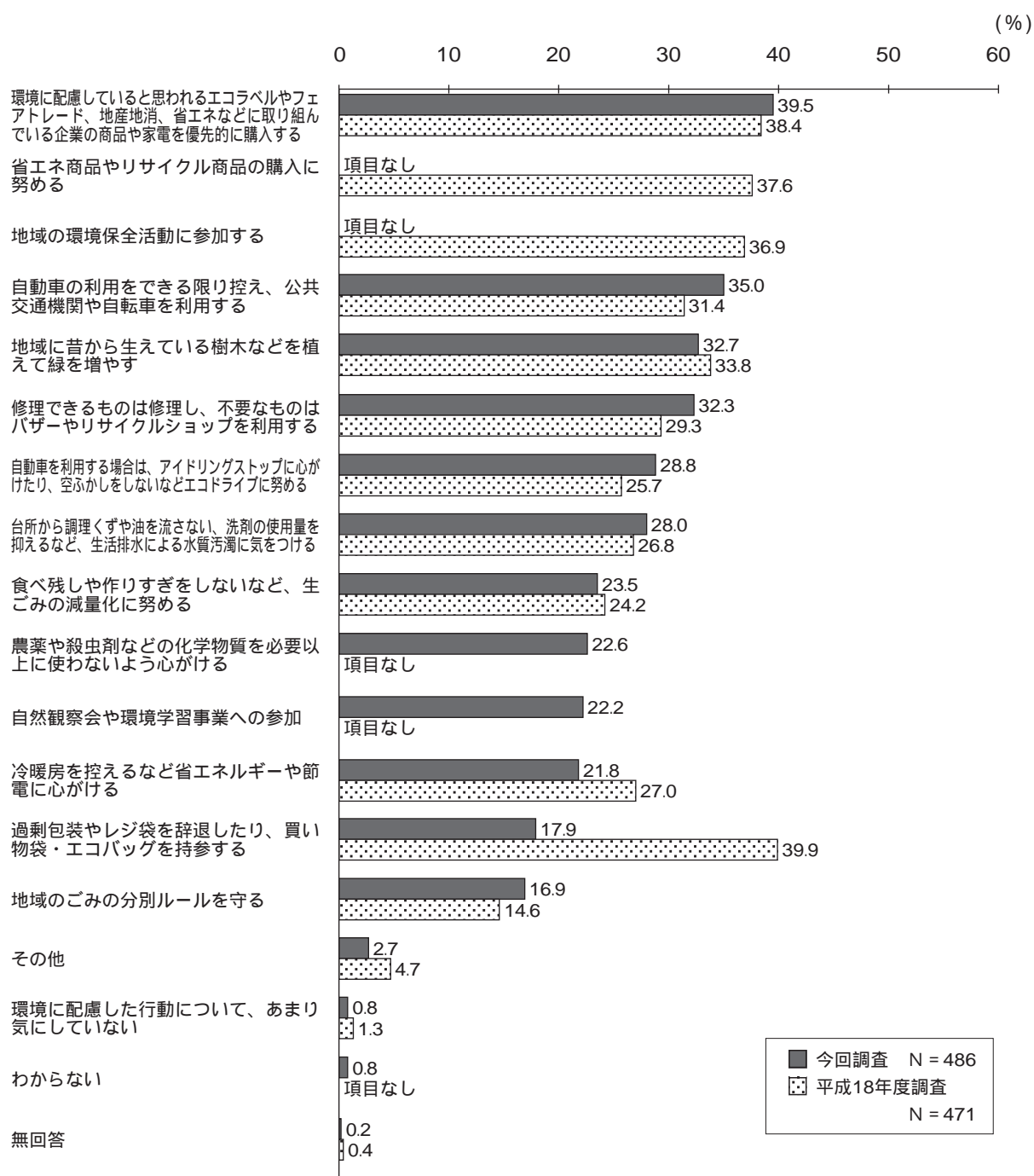
これから取り組もうと考えている、又は、取り組む必要があると思うものについて尋ねたところ、「環境に配慮していると思われるエコラベルやフェアトレード、地産地消、省エネなどに取り組んでいる企業の商品や家電を優先的に購入する」が39.5%、「自動車の利用をできる限り控え、公共交通機関や自転車を利用する」が35.0%、「地域に昔から生えている樹木などを植えて緑を増やす」が32.7%、「修理できるものは修理し、不要なものはバザーやリサイクルショップを利用する」が32.3%などとなっている。

地域別にみると、「自動車の利用をできる限り控え、公共交通機関や自転車を利用する」と答えた人の割合は、尾張地域が最も高いものの、その他の項目ではほとんどが三河地域で最も高くなっている。

(地域別)



(これから取り組もう又は取り組む必要があると思うもの (時系列比較))



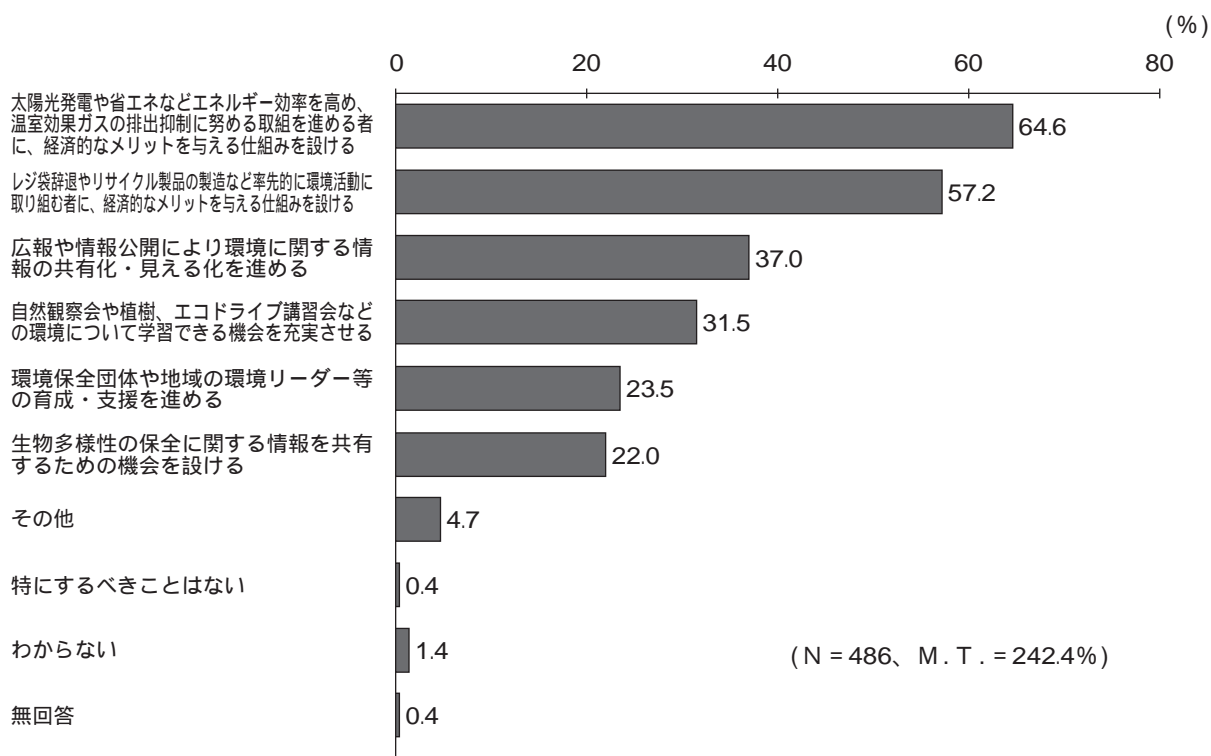
全体では「環境に配慮していると思われるエコラベルやフェアトレード、地産地消、省エネなどに取り組んでいる企業の商品や家電を優先的に購入する」と回答した人が最も多く、次いで、「自動車の利用をできる限り控え、公共交通機関や自転車を利用する」が多くなっており、日々の生活の中で、環境保全活動に取り組むことの必要性が認識されていることがうかがえます。

前回調査から「過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋、エコバッグを持参する」ことが今後必要であると回答した人の割合は大幅に減少しており、また、問2で8割以上の人々が「過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋、エコバッグを持参する」と回答していることから過剰包装やレジ袋の辞退、エコバッグ等の持参が定着してきており、これまで行ってきた周知・啓発やレジ袋削減取組優良店の表彰などの効果が表れたものといえます。

本県としても引き続き、環境保全活動の取組の必要性について、周知・啓発活動を進めていきたいと考えています。

(環境部環境政策課)

問4 問2及び問3で回答された取組を県民の間に効果的に浸透させるために、県は何をするべきですか。(回答は3つまで)

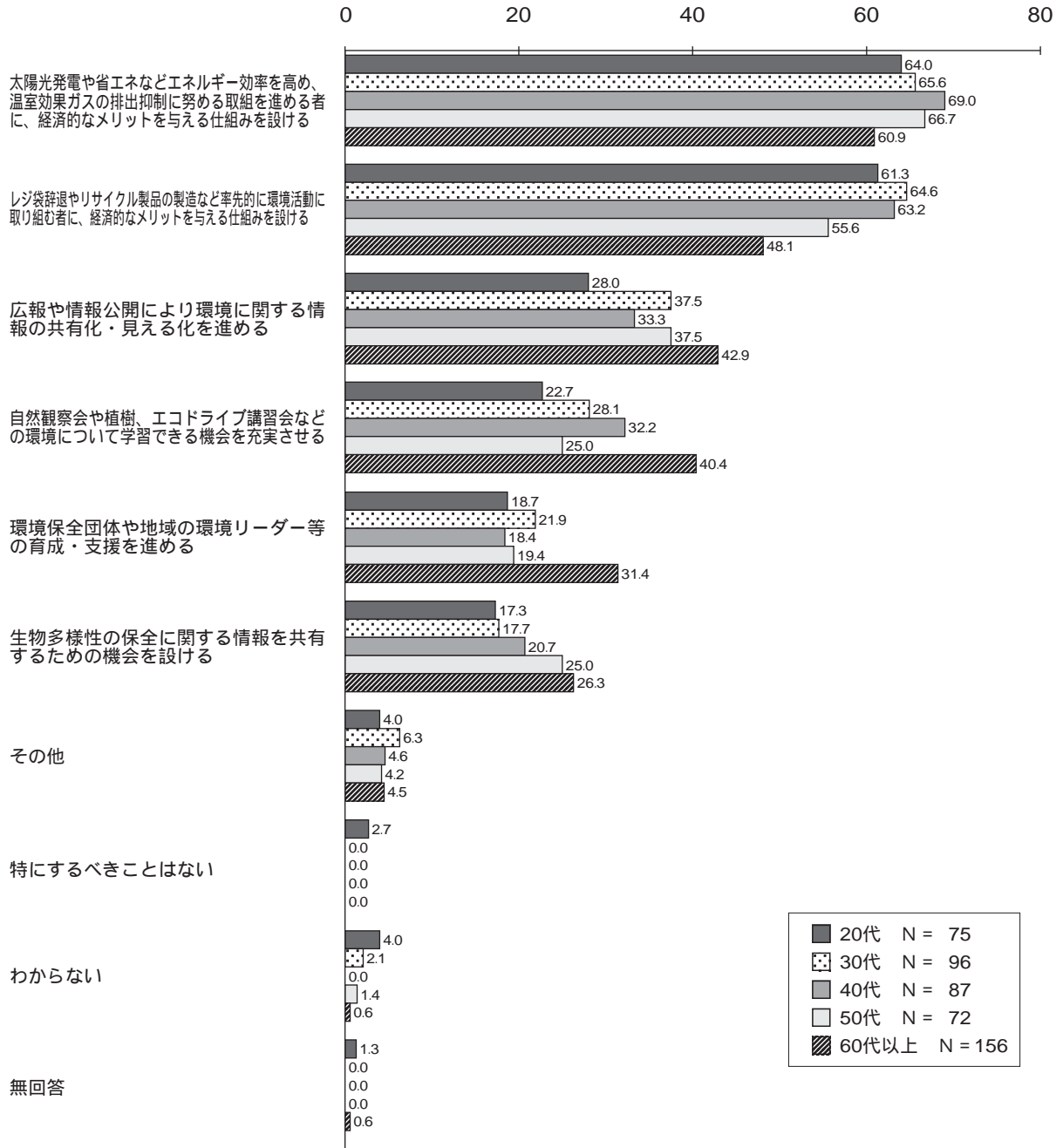


環境に配慮した取組を県民の間に効果的に浸透させるために、県は何をするべきかを尋ねたところ、「太陽光発電や省エネなどエネルギー効率を高め、温室効果ガスの排出抑制に努める取組を進める者に、経済的なメリットを与える仕組みを設ける」が64.6%、「レジ袋辞退やリサイクル製品の製造など率先的に環境活動に取り組む者に、経済的なメリットを与える仕組みを設ける」が57.2%、「広報や情報公開により環境に関する情報の共有化・見える化を進める」が37.0%、「自然観察会や植樹、エコドライブ講習会などの環境について学習できる機会を充実させる」が31.5%などとなっている。

年代別にみると、60代以上で「自然観察会や植樹、エコドライブ講習会などの環境について学習できる機会を充実させる」、「環境保全団体や地域の環境リーダー等の育成・支援を進める」と答えた人の割合が、他の年代に比べ高くなっている。

(年代別)

(%)



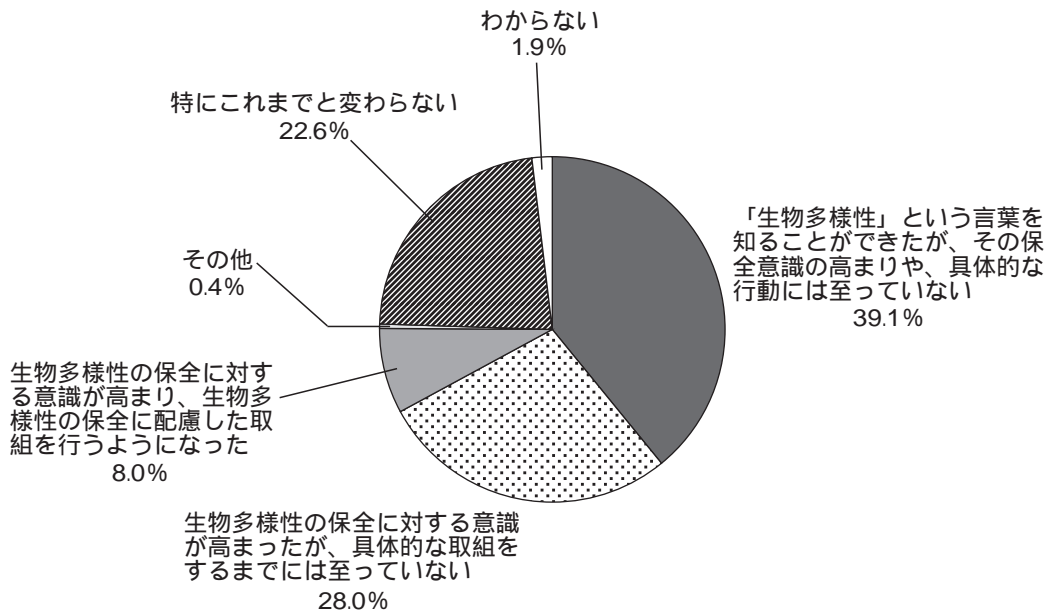
「太陽光発電や省エネなどエネルギー効率を高め、温室効果ガスの排出抑制に努める取組を進める者に、経済的なメリットを与える仕組みを設ける」、「レジ袋辞退やリサイクル製品の製造など率先的に環境活動に取り組む者に、経済的なメリットを与える仕組みを設ける」と回答した人が全体の6割を超え、経済的なメリットによる経済活動と環境保全活動の両立を目指した施策が求められていると考えられ、本県としても環境と経済の両立を目指し、経済的なインセンティブを与える仕組みづくりを含めた施策の展開を図っていきます。

(環境部環境政策課)

2 COP10を契機とした生物多様性の保全への取組

問5 昨年（2010年）10月に愛知・名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されました。あなたは、生物多様性の保全を目的としたCOP10を契機に、生物多様性の保全に対する意識や行動が変わりましたか。（回答は1つ）

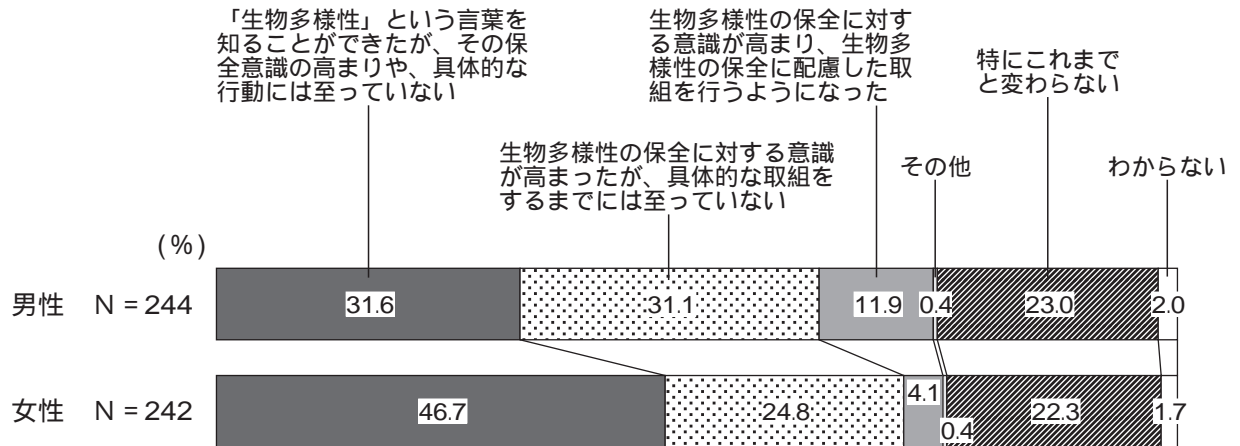
N = 486



COP10を契機に、生物多様性の保全に対する意識や行動が変わったかを尋ねたところ、「「生物多様性」という言葉を知ることができたが、その保全意識の高まりや、具体的な行動には至っていない」が39.1%、「生物多様性の保全に対する意識が高まったが、具体的な取組をするまでには至っていない」が28.0%、「生物多様性の保全に対する意識が高まり、生物多様性の保全に配慮した取組を行うようになった」が8.0%などとなっている。

男女別にみると「生物多様性の保全に対する意識が高まり、生物多様性の保全に配慮した取組を行うようになった」と答えた人の割合は、女性に比べ男性で高くなっている。

(男女別)



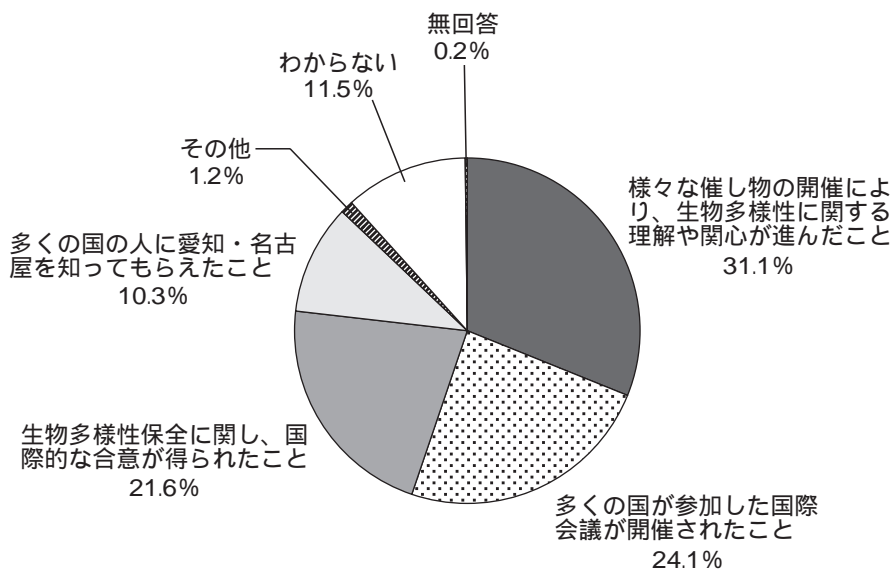
「生物多様性」という言葉を知ることができた、「生物多様性の保全に対する意識が高まった」という人が全体の75%を超え、COP10の開催により「生物多様性」への理解は深まったと考えられます。しかし、一方では「具体的な行動、取組には至っていない」という人が全体の67%を超えています。

このため、本県としても、生物多様性の保全に対する意識をより一層高めるとともに、具体的な行動、取組がより進展するための施策の推進を図っていきます。

(環境部自然環境課)

問6 COP10では、会場の内外において様々な環境に関する取組が行われましたが、COP10の成果として、あなたが最も評価できるものは何ですか。(回答は1つ)

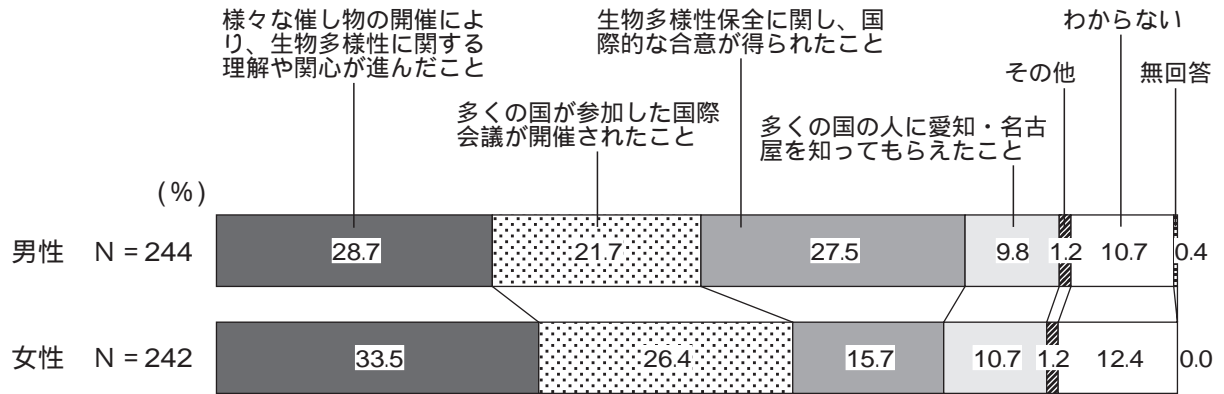
N = 486



COP10の成果として、あなたが最も評価できるものは何か尋ねたところ、「様々な催し物の開催により、生物多様性に関する理解や関心が進んだこと」が31.1%、「多くの国が参加した国際会議が開催されたこと」が24.1%、「生物多様性保全に関し、国際的な合意が得られたこと」が21.6%、「多くの国の人に愛知・名古屋を知ってもらえたこと」が10.3%などとなっている。

男女別にみると、「生物多様性保全に関し、国際的な合意が得られたこと」と答えた人の割合は男性で高く、「様々な催し物の開催により、生物多様性に関する理解や関心が進んだこと」、「多くの国が参加した国際会議が開催されたこと」と答えた人の割合は、女性で高くなっている。

(男女別)



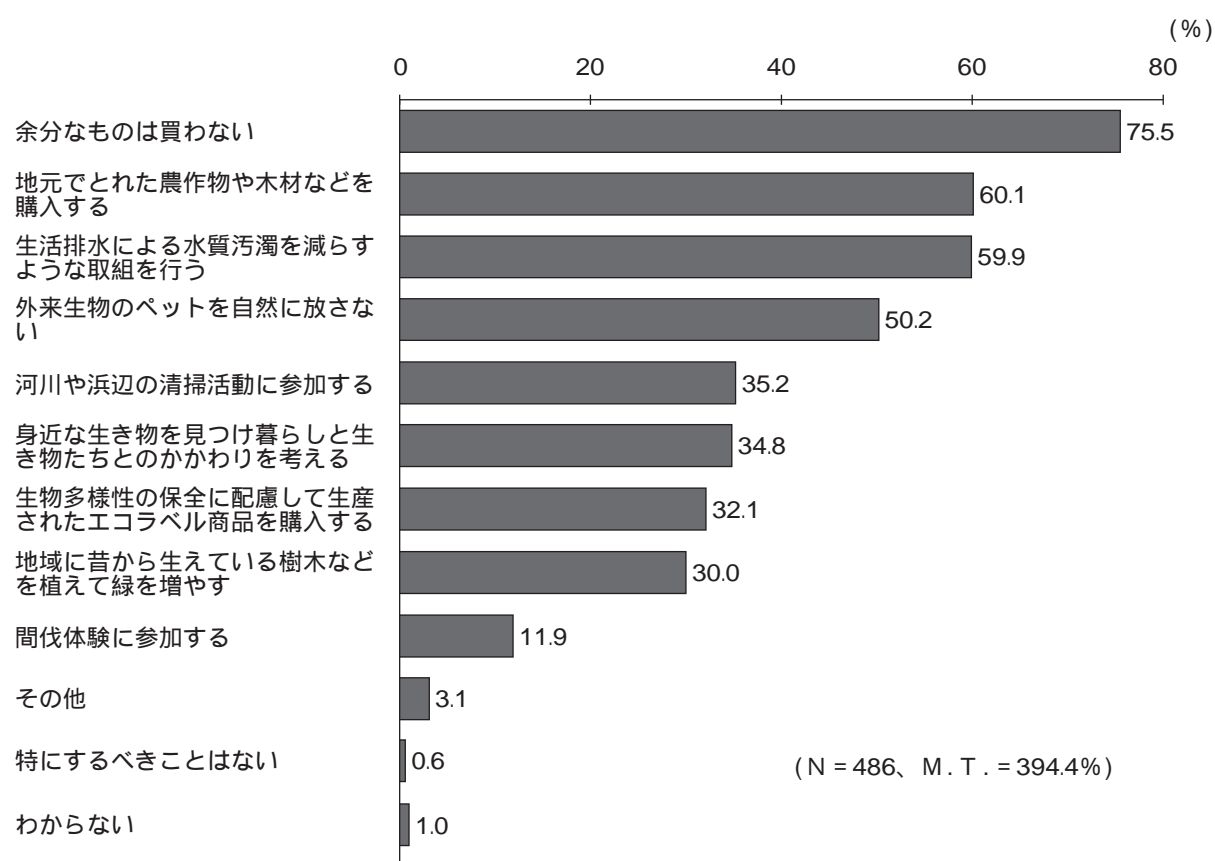
「様々な催し物の開催により、生物多様性に関する理解や関心が進んだこと」、「多くの国が参加した国際会議が開催されたこと」、「生物多様性保全に関し、国際的な合意が得られたこと」、「多くの国の人に愛知・名古屋を知ってもらえたこと」と回答した人が全体の85%を超え、COP10について好意的な評価がなされていると考えられます。

COP10を開催したこと、またその成果のみならず、COP10開催を契機として生物多様性に関する理解や関心が進んだことについても一定の評価がなされていることから、県民の方への生物多様性への理解を深めるという目的が達成されたものと考えています。

本県としては、引き続きCOP10の成果や理念を継承するための施策を実施するとともに、さらに生物多様性への理解や関心を深めてもらうための施策の推進を図っていきます。

(環境部環境政策課)

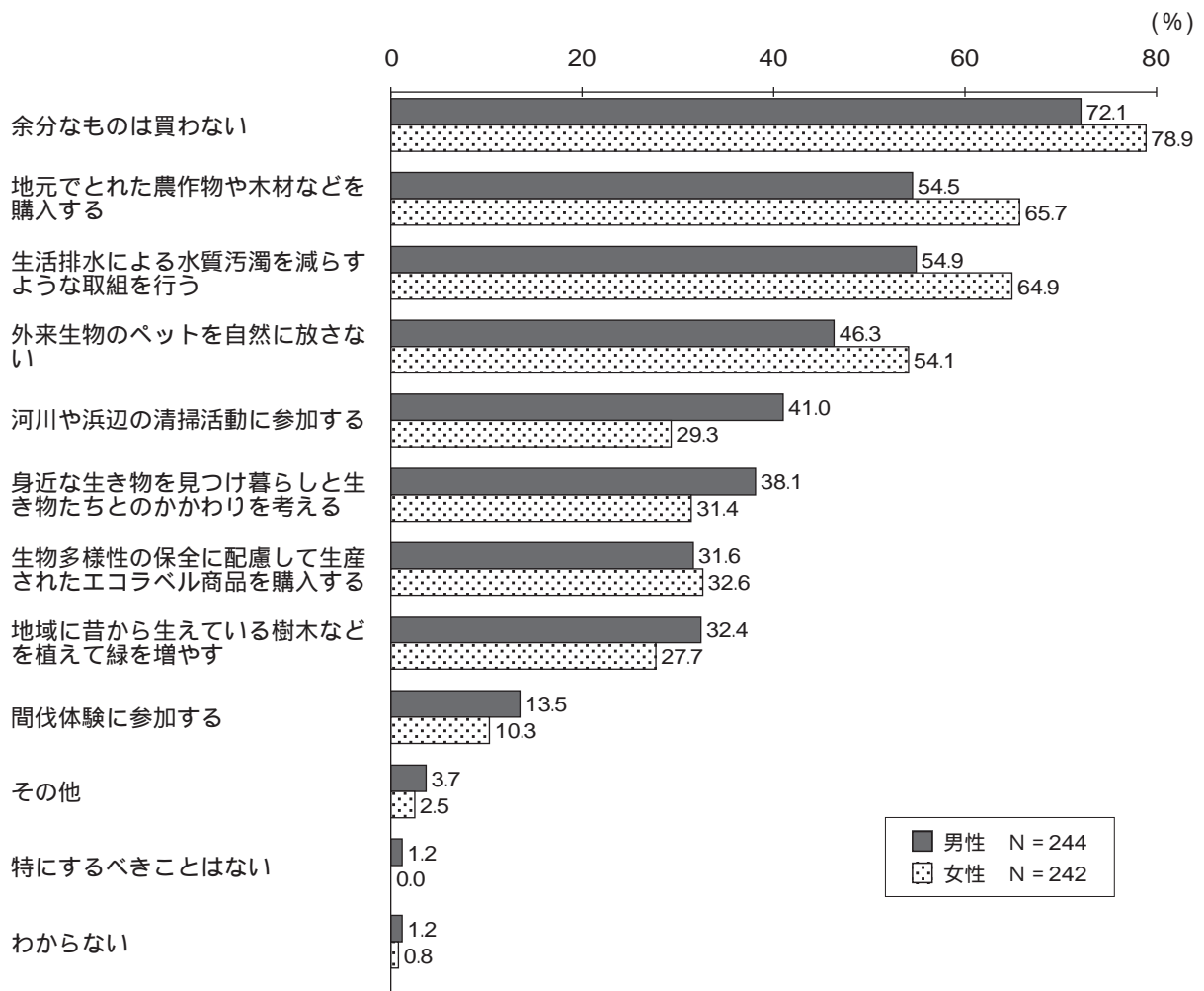
問7 生物多様性の保全に向けて、あなたがこれから取り組もうと考えている、又は、取り組む必要があると思うものは何ですか。(回答はいくつでも)



生物多様性の保全に向けて必要だと思う取組について尋ねたところ、「余分なものは買わない」が75.5%、「地元でとれた農作物や木材などを購入する」が60.1%、「生活排水による水質汚濁を減らすような取組を行う」が59.9%、「外来生物のペットを自然に放さない」が50.2%などとなっている。

男女別でみると、「地元でとれた農作物や木材などを購入する」、「生活排水による水質汚濁を減らすような取組を行う」と答えた人の割合は、女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

(男女別)



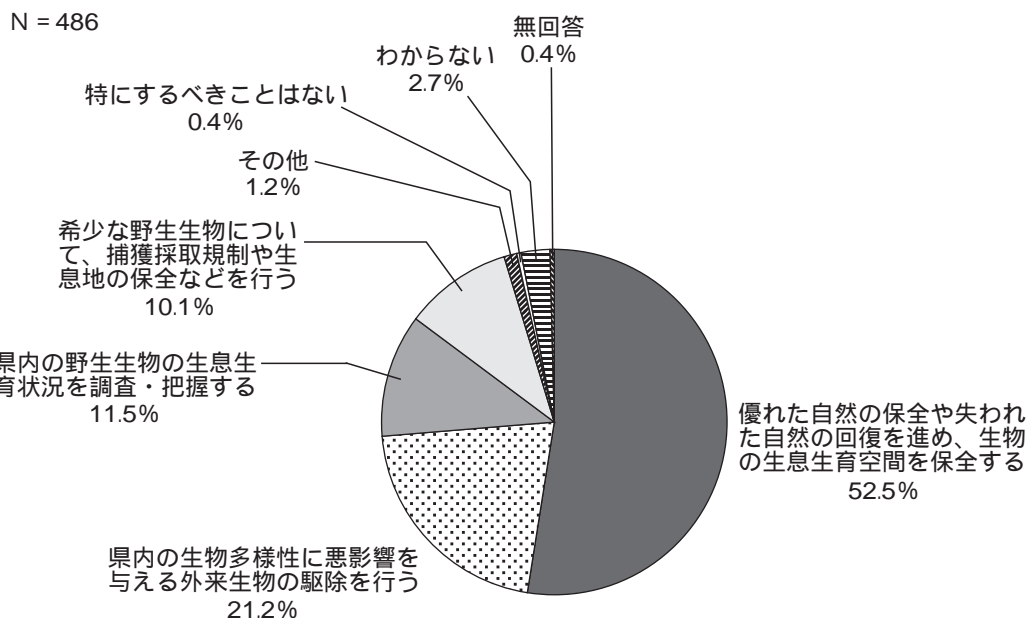
「余分なものは買わない」、「地元でとれた農作物や木材などを購入する」、「生活排水による水質汚濁を減らすような取組を行う」、「外来生物のペットを自然に放さない」などの回答がそれぞれ50%を超えており、日常生活の中でできる取組については、取り組もうまたは取り組むべきと考えていることがうかがえます。

一方、「河川や浜辺の清掃活動」、「植樹」、「間伐体験」など、日常生活での取組から一歩進んで行う活動については、若干回答数が少ないことから、それらを推進するための施策の展開を図っていきます。

(環境部自然環境課)

問8 生物多様性の保全に関して、県全体で推進するとよいと思う取組はどれですか。

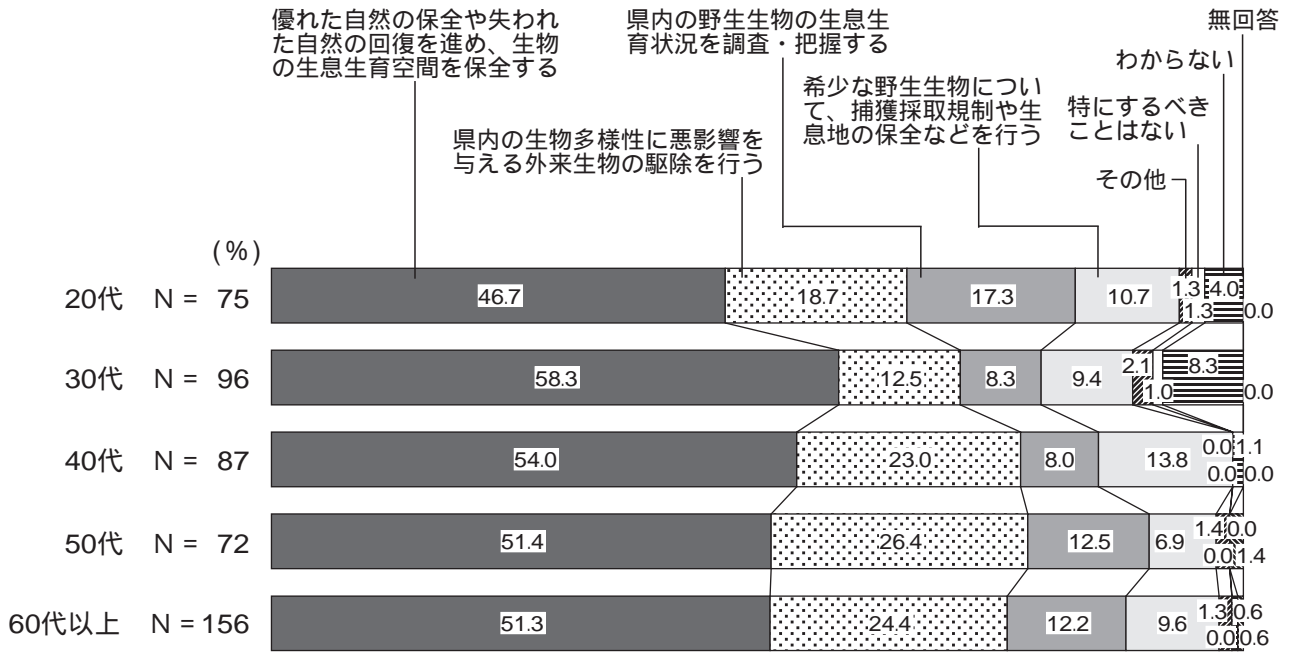
(回答は1つ)



生物多様性の保全に関して、県全体で推進するとよいと思う取組を尋ねたところ、「優れた自然の保全や失われた自然の回復を進め、生物の生息生育空間を保全する」が52.5%、「県内の生物多様性に悪影響を与える外来生物の駆除を行う」が21.2%、「県内の野生生物の生息生育状況を調査・把握する」が11.5%、「希少な野生生物について、捕獲採取規制や生息地の保全などを行う」が10.1%などとなっている。

年代別にみると、「県内の生物多様性に悪影響を与える外来生物の駆除を行う」と答えた人の割合は、20代、30代に比べ40代以上で比較的高くなっている。

(年代別)



全体の95%の人が生物多様性保全のための取組の必要性を認識しています。

このうち、半数以上の人々が「優れた自然の保全や失われた自然の回復を進め、生物の生息生育空間を保全する」ことを一番に推進すべきとしており、本県が進める生態系ネットワーク形成を一層進めることが重要であると思われます。

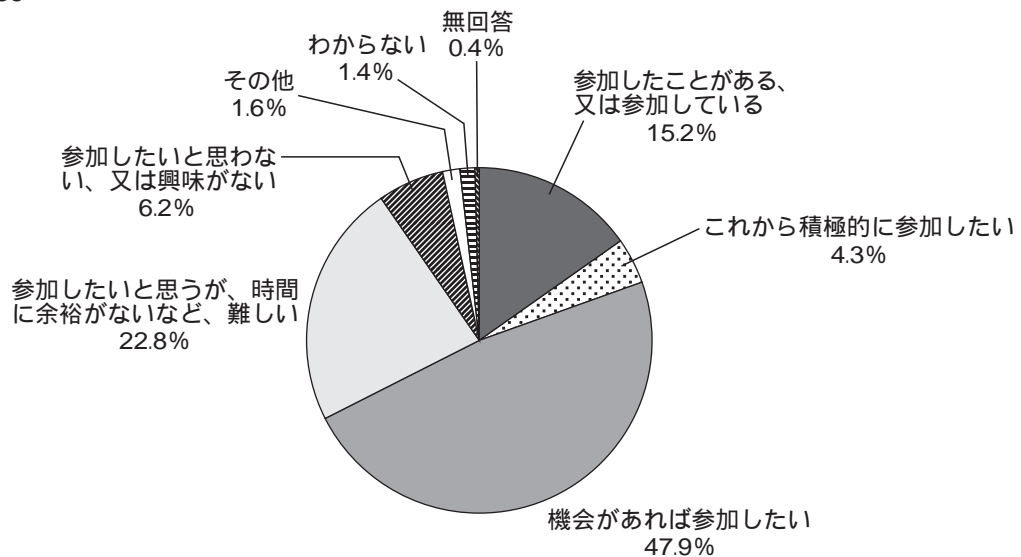
また、「外来生物の駆除」や「希少な野生生物の保護」など種に関する取組についても推進することが求められていることから、外来生物の分布状況や防除方法及び希少種の保護に関する情報を周知するなど、生態系ネットワーク形成と併せて施策の展開を図っていきます。

(環境部自然環境課)

3 環境学習・環境保全への取組

問9 あなたは、環境に関する知識や活動方法を学ぶ環境学習活動、又は、野生動植物の観察や里地里山の保全といった自然環境保全に向けた活動に参加したことはありますか。又は、参加したいと思いますか。(回答は1つ)

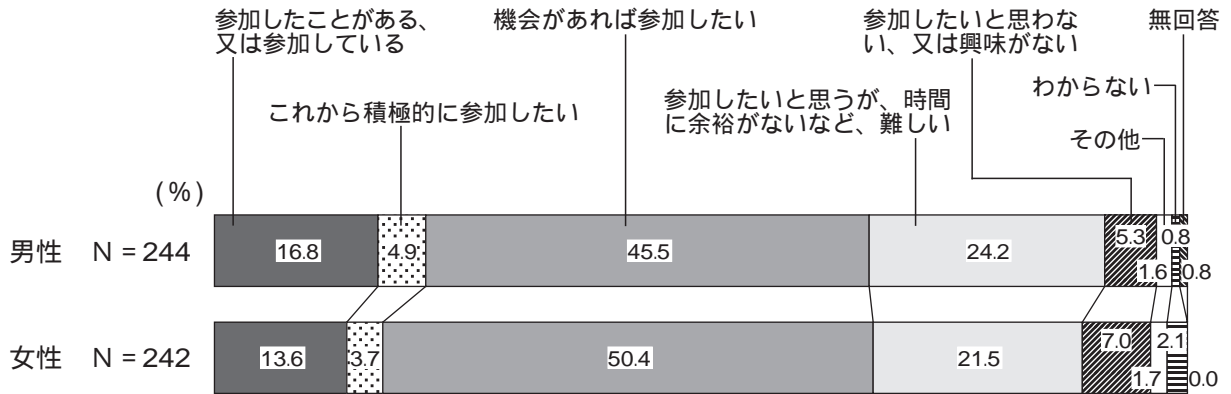
N = 486



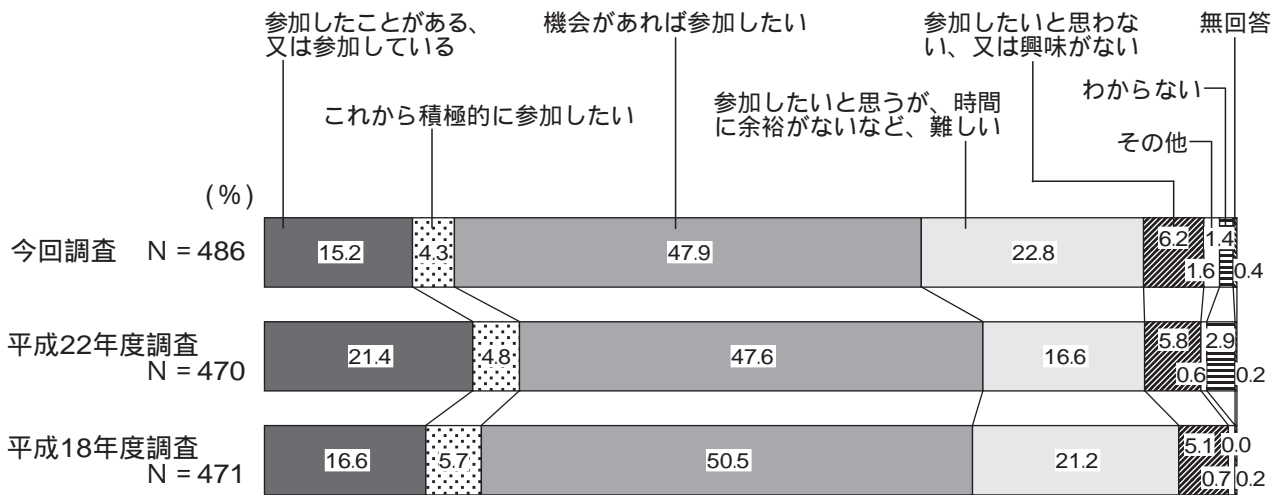
環境学習活動や自然環境保全に向けた活動に参加したことがあるか尋ねたところ、「機会があれば参加したい」が47.9%、「参加したいと思うが、時間に余裕がないなど、難しい」が22.8%、「参加したことがある、又は参加している」が15.2%などとなっている。

男女別にみると、「機会があれば参加したい」と答えた人の割合は、女性の方が男性より高い一方で、「参加したいと思うが、時間に余裕がないなど、難しい」と答えた人の割合は、男性の方が女性より高くなっている。

(男女別)



(環境学習活動等への参加について (時系列比較))



「機会があれば参加したい」と回答した人の割合は、平成18年度及び平成22年度の県政モニターアンケートに引続き全体の約半数を占めており、環境学習への県民の参加意識は継続的に非常に高いことがうかがえます。

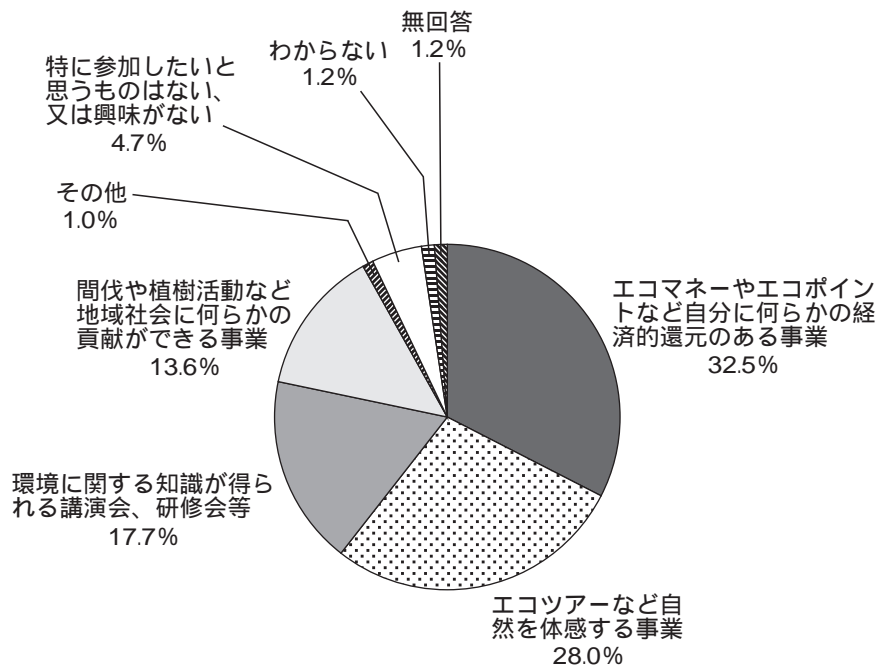
本県では、環境学習への参加を推進してきました。今後とも参加の機会の増加を図っていきたいと考えています。

(環境部環境活動推進課)

問10 現在、県、市町村、企業、NPOなど様々な団体が環境に関する取組を実施しています。

あなたが参加してみたいと思うものは何ですか。(回答は1つ)

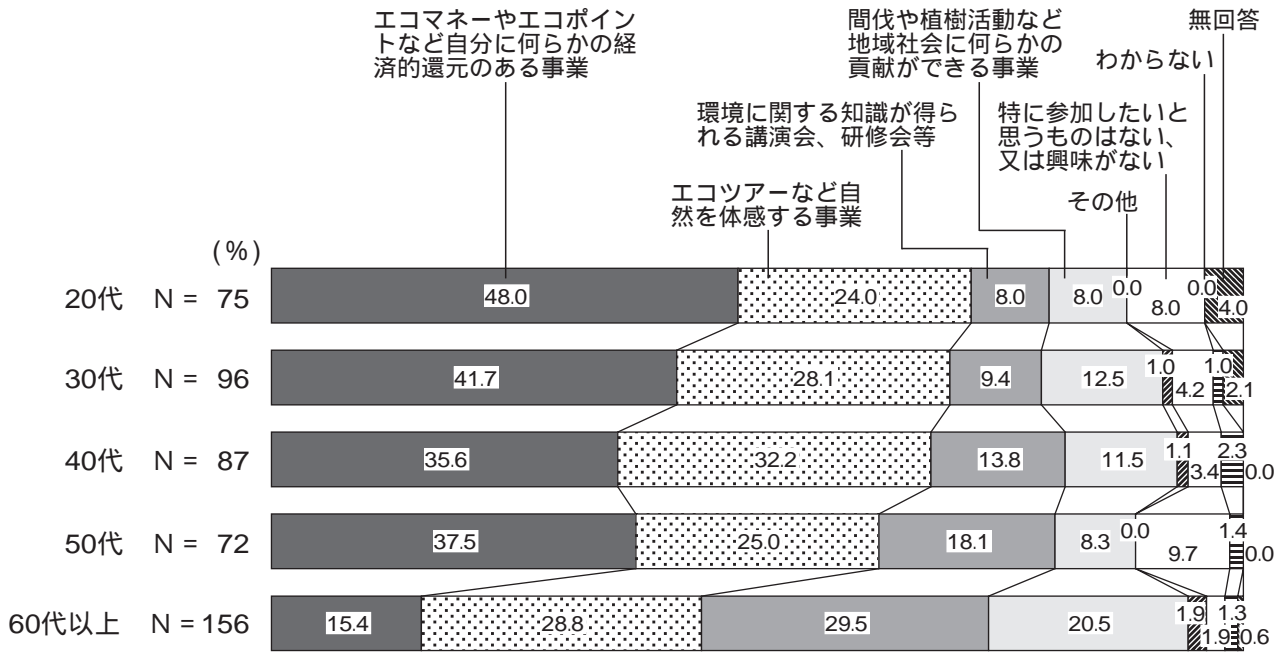
N = 486



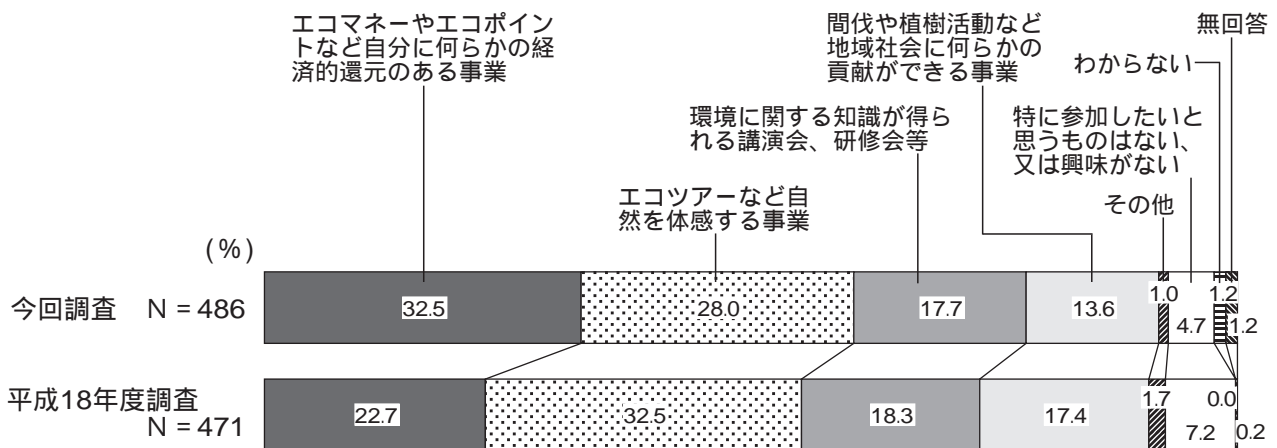
様々な団体が実施している環境に関する取組のうち、参加してみたいと思うものを尋ねたところ、「エコマネーやエコポイントなど自分に何らかの経済的還元のある事業」が32.5%、「エコツアーなど自然を体感する事業」が28.0%、「環境に関する知識が得られる講演会、研修会等」が17.7%、「間伐や植樹活動など地域社会に何らかの貢献ができる事業」が13.6%などとなっている。

年代別にみると、20代では「エコマネーやエコポイントなど自分に何らかの経済的還元のある事業」と答えた人の割合が最も高い一方で、60代以上では「環境に関する知識が得られる講演会、研修会等」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(年代別)



(参加してみたいと思う取組 (時系列比較))



「エコマネーやエコポイントなど自分に何らかの経済的還元のある事業」、「エコツアーなど自然を体感する事業」、「環境に関する知識が得られる講演会、研修会等」、「間伐や植樹活動など地域社会に何らかの貢献ができる事業」と回答した人の合計は全体の90%以上となっており、関心の高さがうかがえます。また、前回調査から「特に参加したいと思うものはない、又は興味がない」と回答した人が減少しており、環境保全活動への参加意欲がさらに高まってきていることがうかがえます。

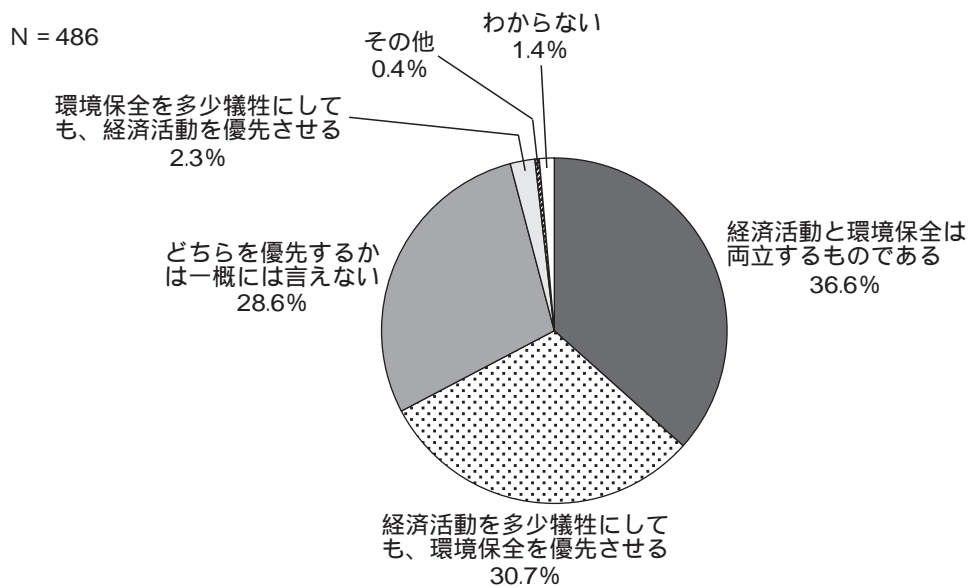
また、問9で、「環境保全活動に参加したことがある、又は参加している」と回答した人が15.2%であることから、環境保全活動に関する施策を幅広く実施し、より一層環境保全活動への意識を高め、参加を促す施策が求められており、こうした施策の拡充が必要と考えています。

(環境部環境活動推進課)

4 経済活動、企業活動、地域活動への支援

問11 あなたは、経済活動と環境保全の活動の関係について、どのように考えていますか。

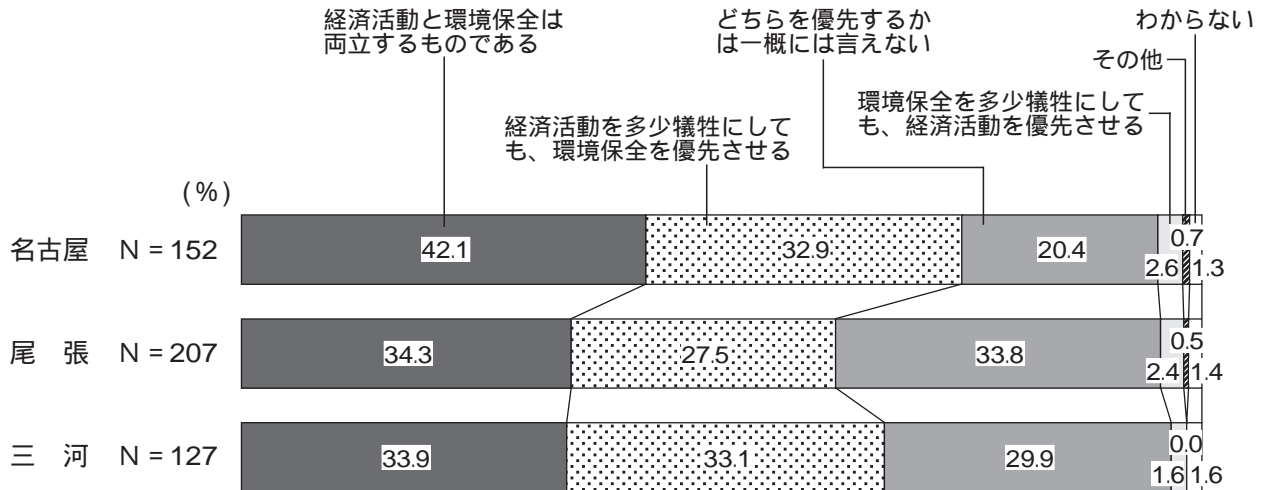
(回答は1つ)



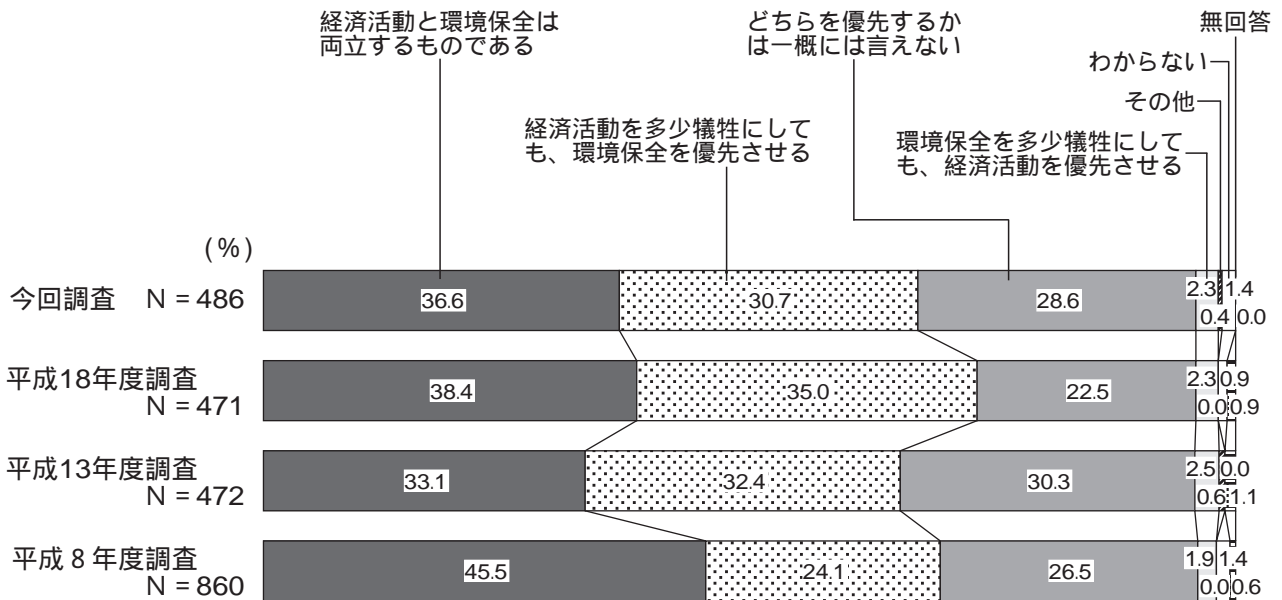
経済活動と環境保全の活動の関係について尋ねたところ、「経済活動と環境保全は両立するものである」が36.6%、「経済活動を多少犠牲にしても、環境保全を優先させる」が30.7%、「どちらを優先するかは一概には言えない」が28.6%、「環境保全を多少犠牲にしても、経済活動を優先させる」が2.3%などとなっている。

地域別にみると、「経済活動と環境保全は両立するものである」と答えた人の割合は、名古屋地域で他の地域に比べて高くなっている。

(地域別)



(経済活動と環境保全の活動の関係について (時系列比較))

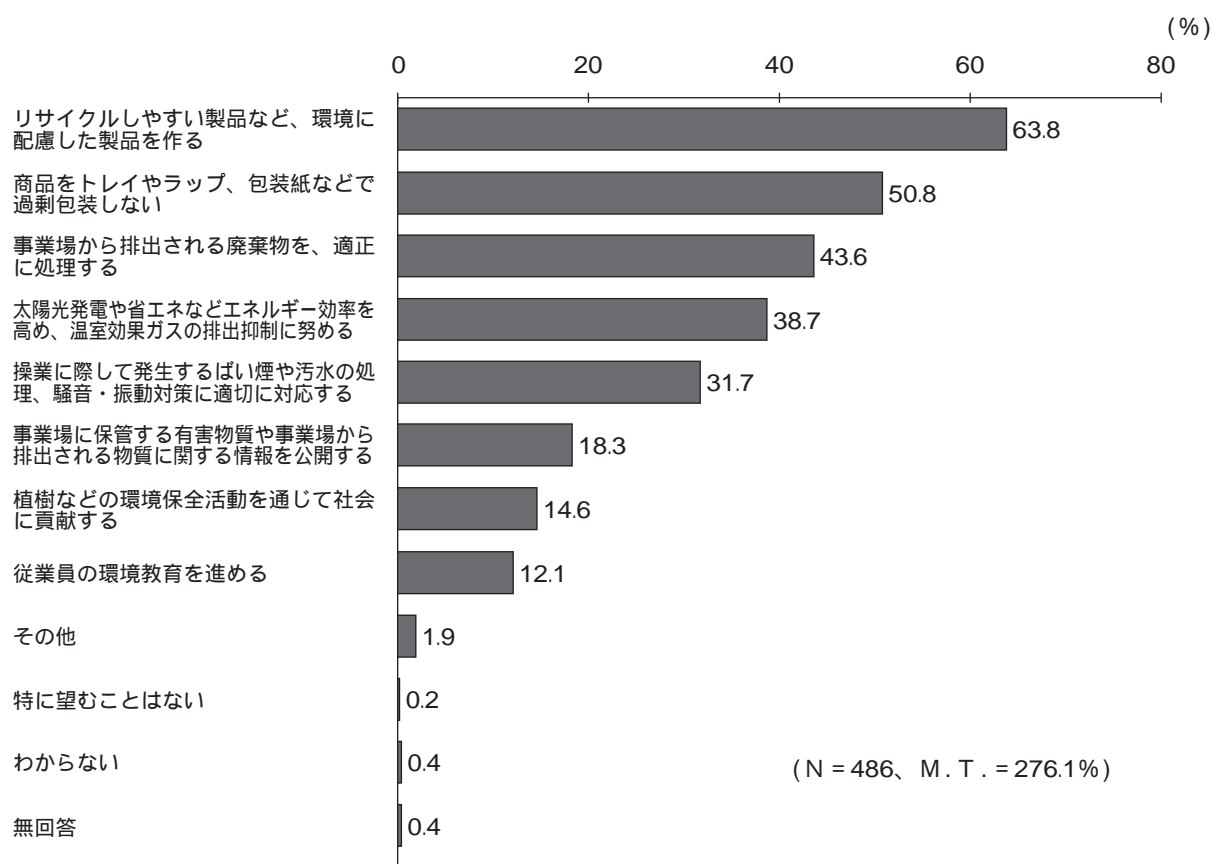


「経済活動と環境保全是両立するものである」、「経済活動を多少犠牲にしても、環境保全を優先させる」、「どちらを優先するかは一概には言えない」と回答した人の割合はそれぞれ全体の約3割となっています。このうち、「どちらを優先するかは一概には言えない」と回答した人の割合は前回調査から6ポイントあまり増加しています。

また、環境保全を多少犠牲にしても、経済活動を優先させるとした人の割合が低いことから、環境保全の意識が浸透しているといえる。今後、県民の方にその理解がさらに深まるよう環境保全施策の推進を図っていきたいと考えています。

(環境部環境政策課)

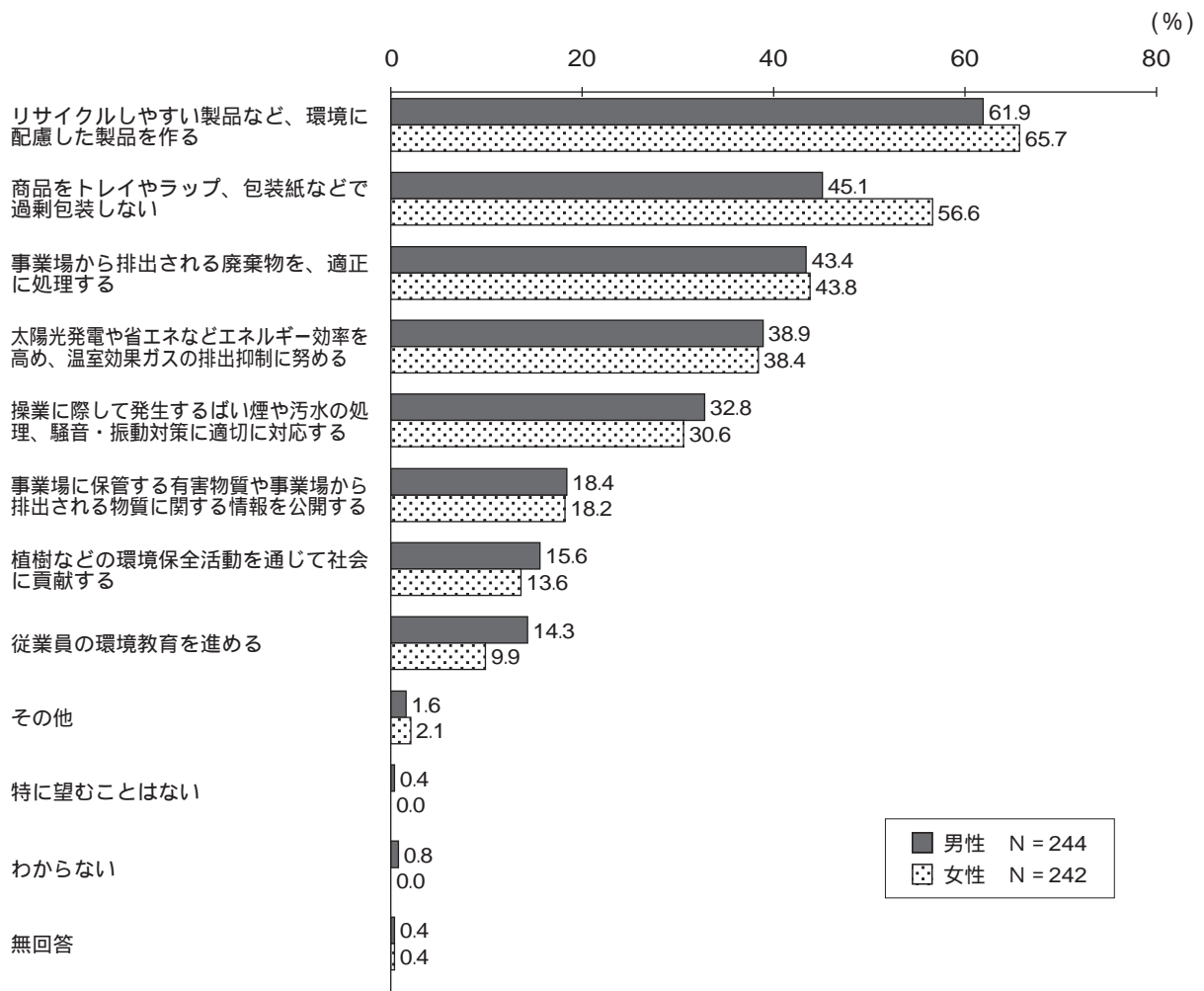
問12 多くの企業が環境配慮、環境保全に取り組んでいますが、あなたは、これらの企業にどのような取組を期待しますか。(回答は3つまで)



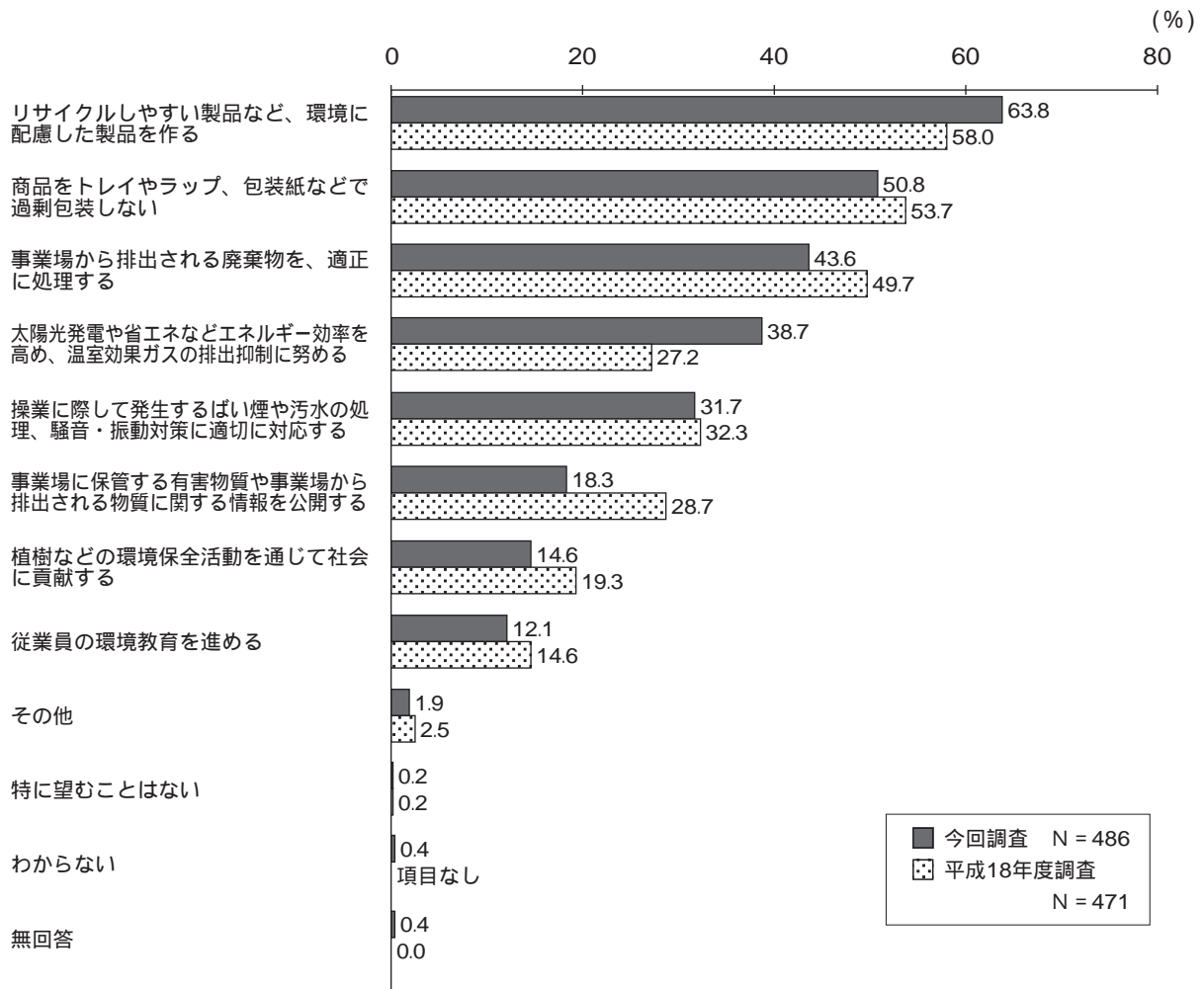
環境配慮、環境保全に取り組んでいる企業にどのような取組を期待するか尋ねたところ、「リサイクルしやすい製品など、環境に配慮した製品を作る」が63.8%、「商品をトレイやラップ、包装紙などで過剰包装しない」が50.8%、「事業場から排出される廃棄物を、適正に処理する」が43.6%、「太陽光発電や省エネなどエネルギー効率を高め、温室効果ガスの排出抑制に努める」が38.7%などとなっている。

男女別にみると、「商品をトレイやラップ、包装紙などで過剰包装しない」と答えた人の割合は、女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

(男女別)



(環境配慮、環境保全に取り組んでいる企業に期待する取組 (時系列比較))

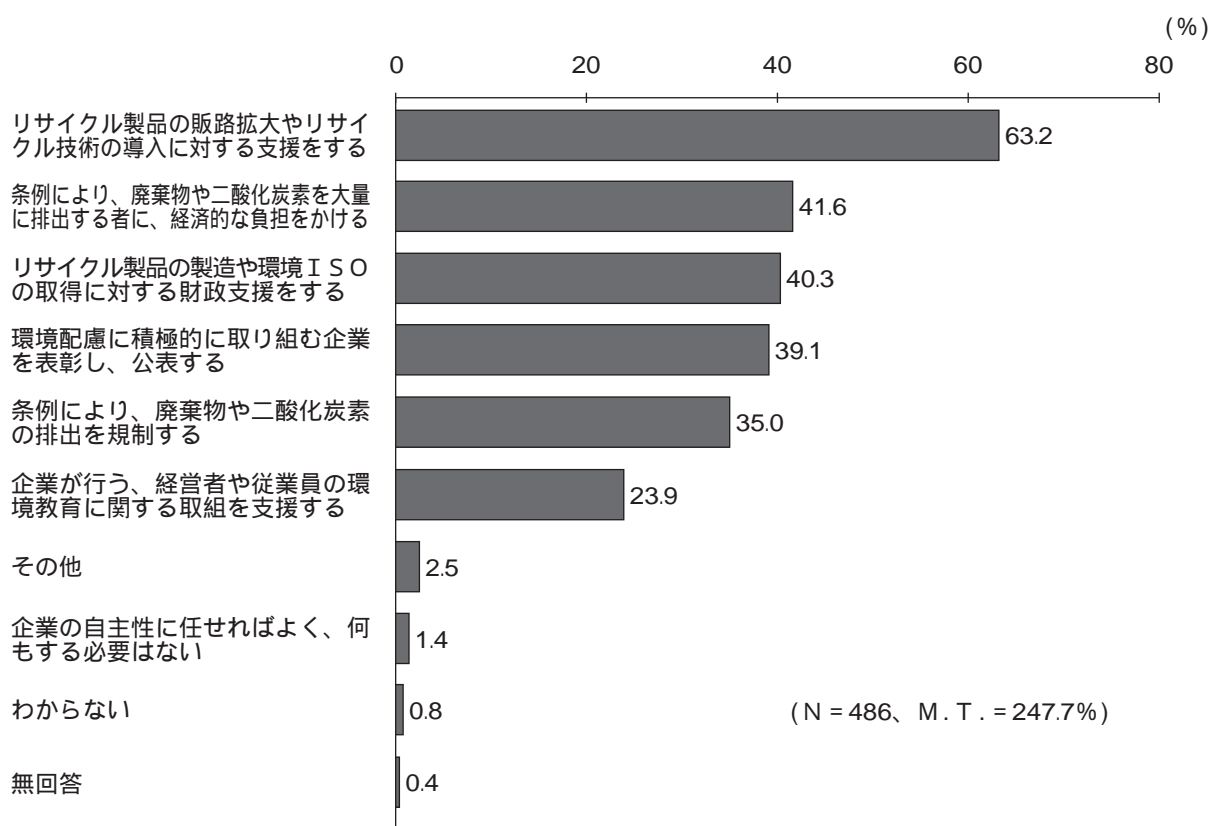


約6割の人が「リサイクルしやすい製品など、環境に配慮した製品を作る」ことを企業に期待しています。また、前回調査から「太陽光発電や省エネなどエネルギー効率を高め、温室効果ガスの排出抑制に努める」と回答した人の割合が10ポイント以上増加しており、企業に対して、廃棄物問題だけでなく、地球温暖化等の地球環境への配慮が期待されていることがうかがえます。

こうしたことから、県民の方からは、多くの企業に対し、環境配慮設計や温室効果ガスの排出の少ない製品に対する要求が高まっていることから、本県としても、企業におけるこうした取組がより一層推進されるような施策の展開に取り組んでいきたいと考えています。

(環境部環境政策課)

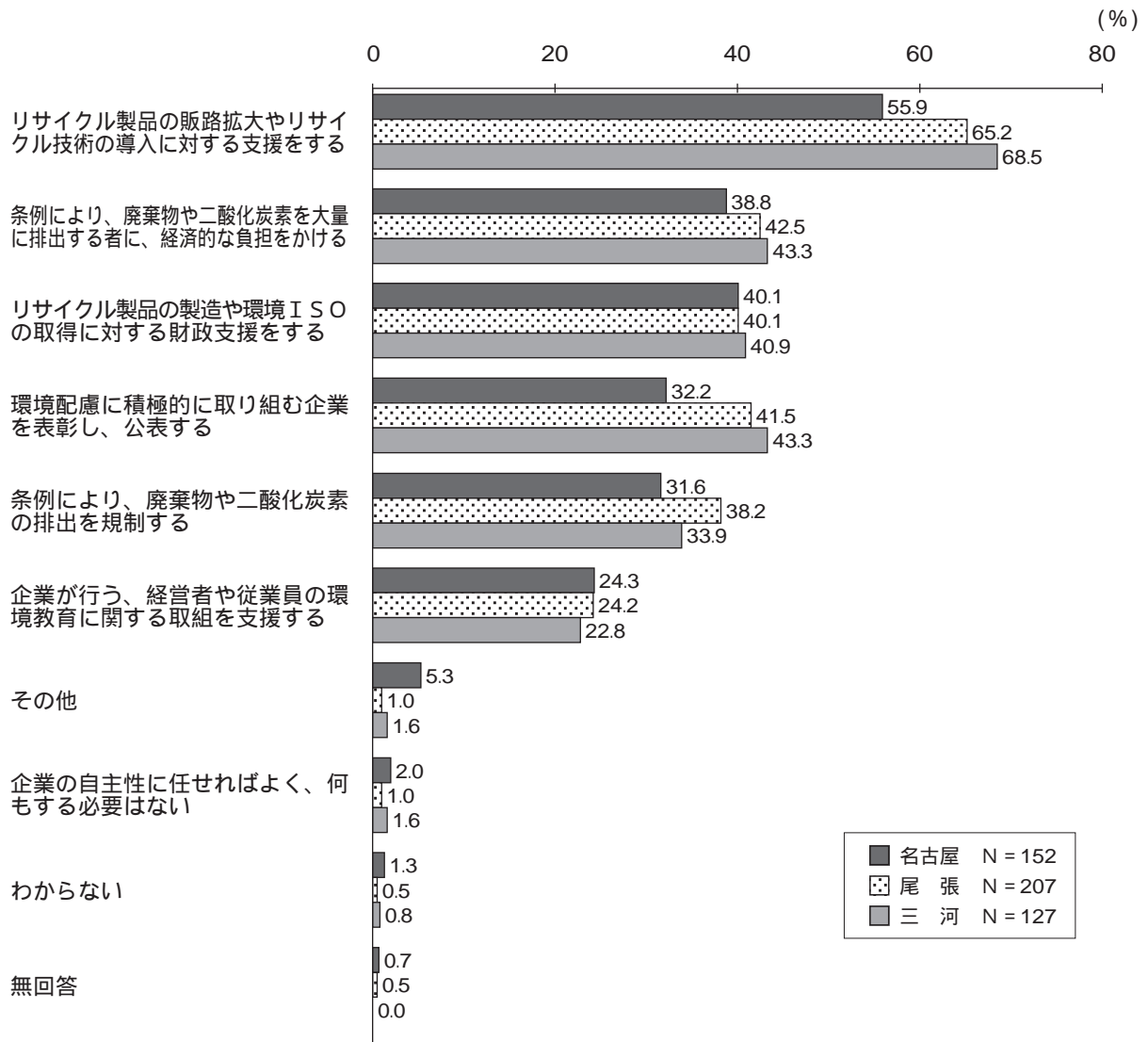
問13 多くの企業がこれまで以上に環境配慮、環境保全に積極的に取り組むようにするために、県は何をするべきですか。(回答は3つまで)



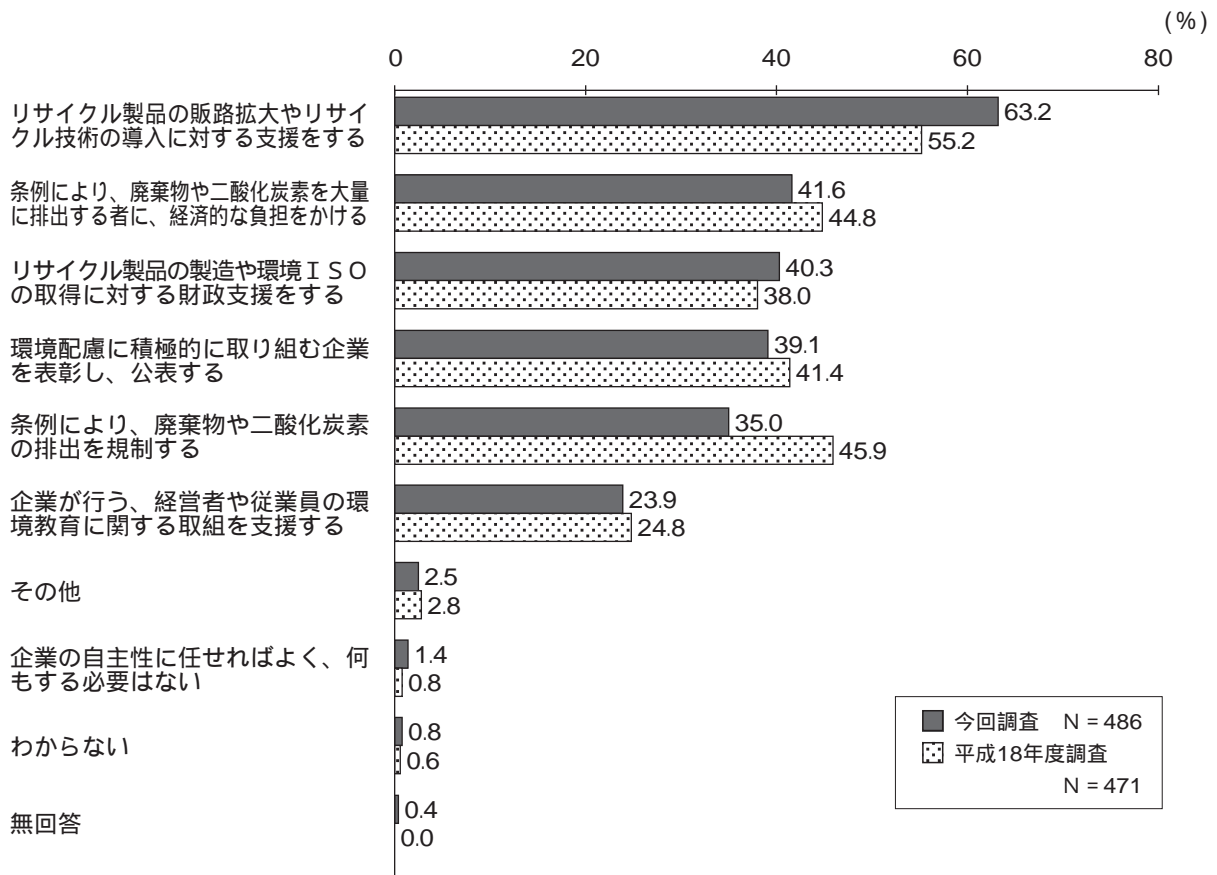
多くの企業がこれまで以上に環境配慮、環境保全に積極的に取り組むようにするために、県は何をするべきかを尋ねたところ、「リサイクル製品の販路拡大やリサイクル技術の導入に対する支援をする」が63.2%、「条例により、廃棄物や二酸化炭素を大量に排出する者に、経済的な負担をかける」が41.6%、「リサイクル製品の製造や環境ISOの取得に対する財政支援をする」が40.3%、「環境配慮に積極的に取り組む企業を表彰し、公表する」が39.1%などとなっている。

地域別にみると、「リサイクル製品の販路拡大やリサイクル技術の導入に対する支援をする」、「環境配慮に積極的に取り組む企業を表彰し、公表する」と答えた人の割合は、三河地域で名古屋地域より10ポイント以上高くなっている。

(地域別)



(多くの企業がこれまで以上に環境配慮、環境保全に積極的に取り組むようにするために、県は何をするべきか (時系列比較))



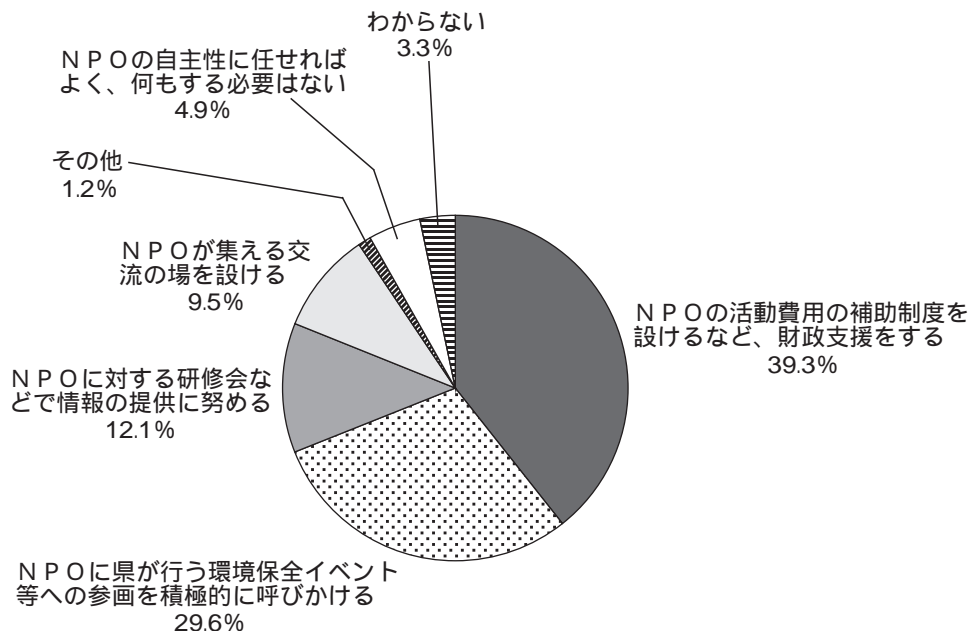
「リサイクル製品の販路拡大やリサイクル技術の導入に対する支援をする」と回答した人が前回調査よりも8ポイント増加した一方で、「条例により、廃棄物や二酸化炭素を大量に排出する者に、経済的な負担をかける」、「条例により、廃棄物や二酸化炭素の排出を規制する」と回答した人は減少しています。規制行政のみならず、企業への経済的支援も求められていることがうかがえます。

こうしたことから、本県としてもこれまでの規制的手法に加え、経済的手法により企業等への働きかけを強化していくなど総合的な施策の展開を図っていきたいと考えています。

(環境部環境政策課)

問14 近年、NPOによる環境保全活動が活発になっています。こうした活動を促進するため、県は何をすべきと思いますか。(回答は1つ)

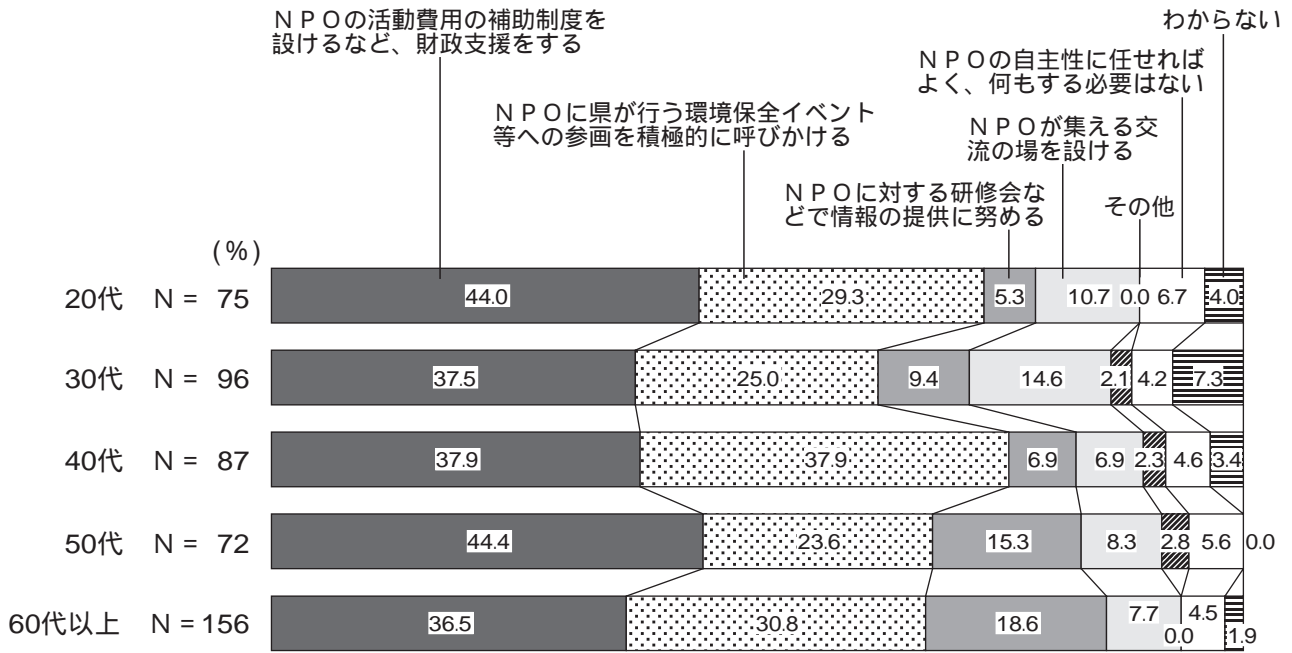
N = 486



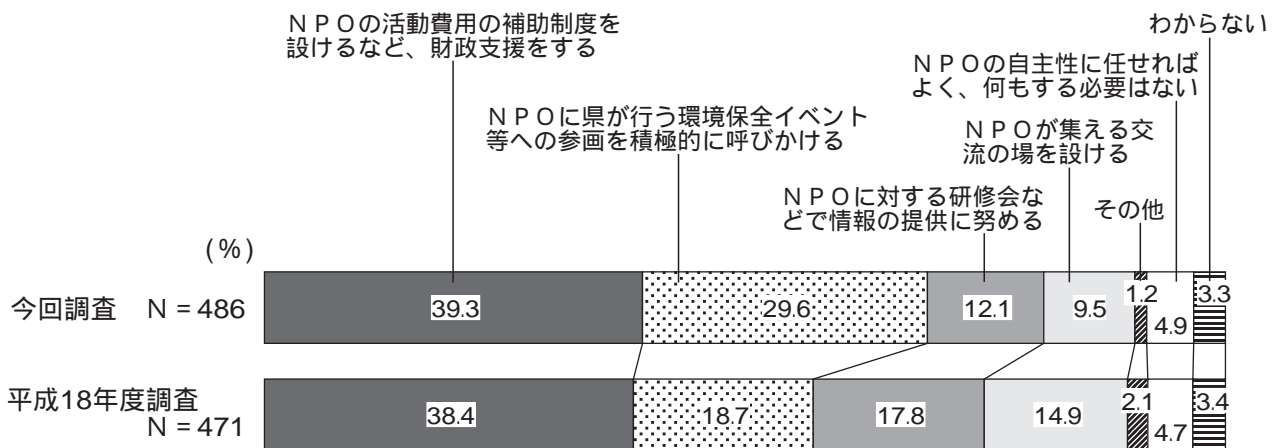
NPOによる環境保全活動を促進するため、県は何をすべきかを尋ねたところ、「NPOの活動費用の補助制度を設けるなど、財政支援をする」が39.3%、「NPOに県が行う環境保全イベント等への参画を積極的に呼びかける」が29.6%、「NPOに対する研修会などで情報の提供に努める」が12.1%、「NPOが集える交流の場を設ける」が9.5%などとなっている。

年代別にみると、20代、30代では「NPOが集える交流の場を設ける」と答えた人の割合が他の年代に比べて高く、50代以上では「NPOに対する研修会などで情報の提供に努める」と答えた人の割合が他の年代に比べて高くなっている。

(年代別)



(NPOによる環境保全活動を促進するため、県は何をするべきか (時系列比較))



全体の約4割の人が「NPOの活動費用の補助制度を設けるなど、財政支援をする」と回答し、次いで「NPOに県が行う環境保全イベント等への参画を積極的に呼びかける」と回答した人が全体の約3割となっています。

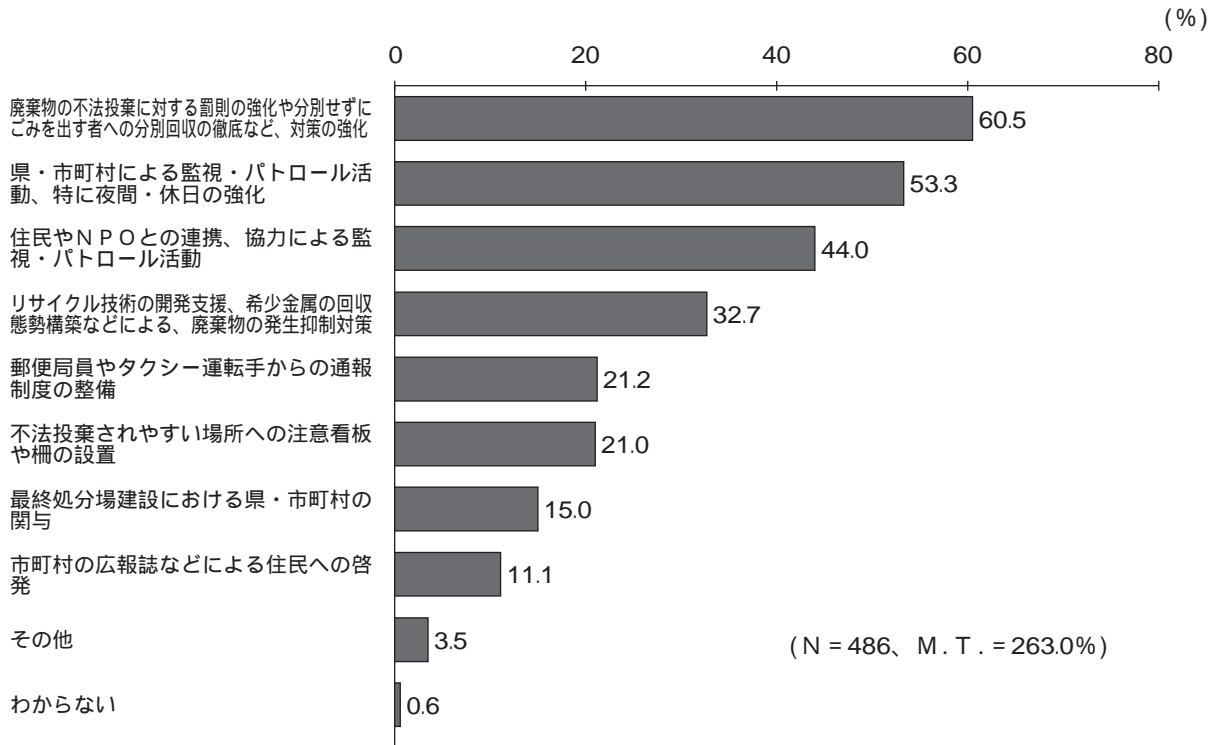
また、前回調査から「NPOに県が行う環境保全イベント等への参画を積極的に呼びかける」と回答した人が10ポイント以上増加していることから、県による財政支援を求める声は依然として多いものの、NPOに対する働きかけを強化すべきとの声も大きくなっていることがうかがえます。

こうしたことから、本県としても、NPOとの連携強化を図る取組をさらに進めていく必要があると考えています。

(環境部環境政策課)

5 安心・安全への取組

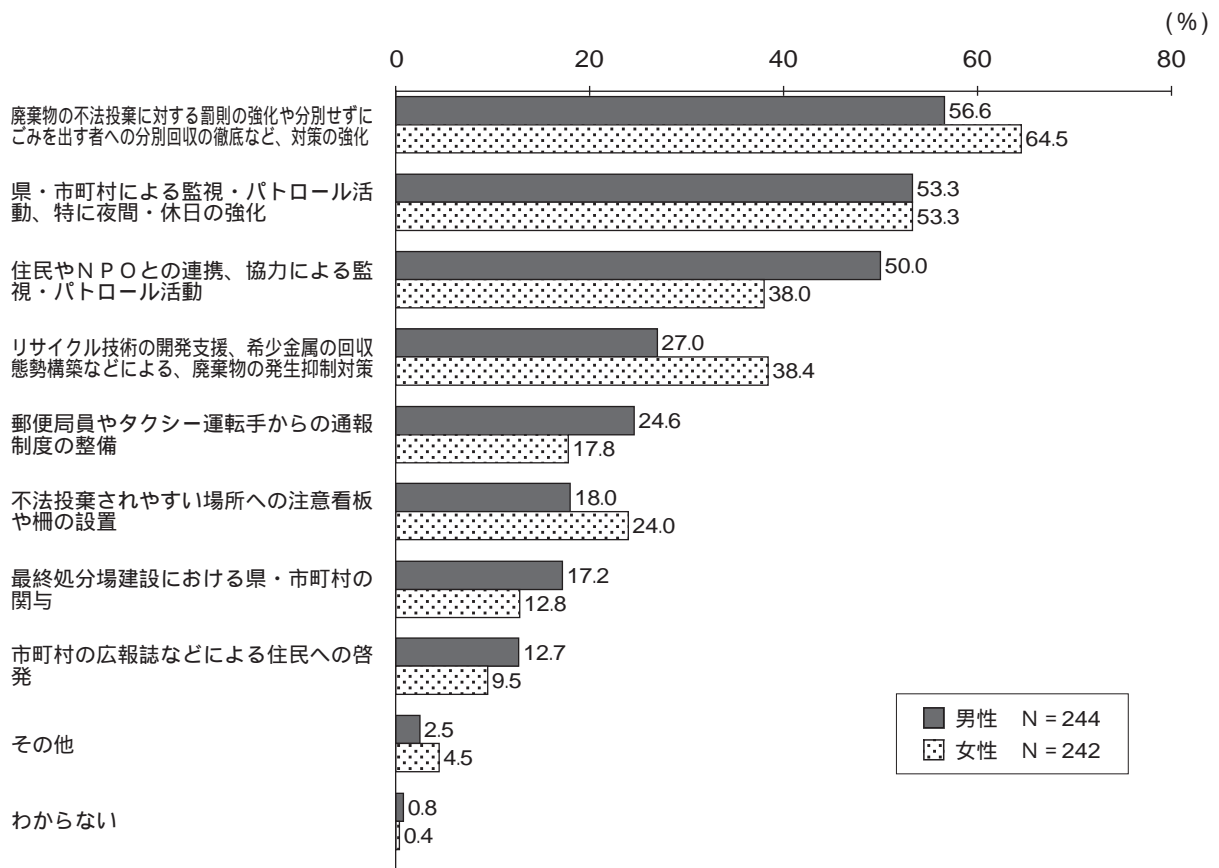
問15 廃棄物の不法投棄や過剰保管の防止、適正な処理の推進のためには、県や市町村は何をするべきですか。(回答は3つまで)



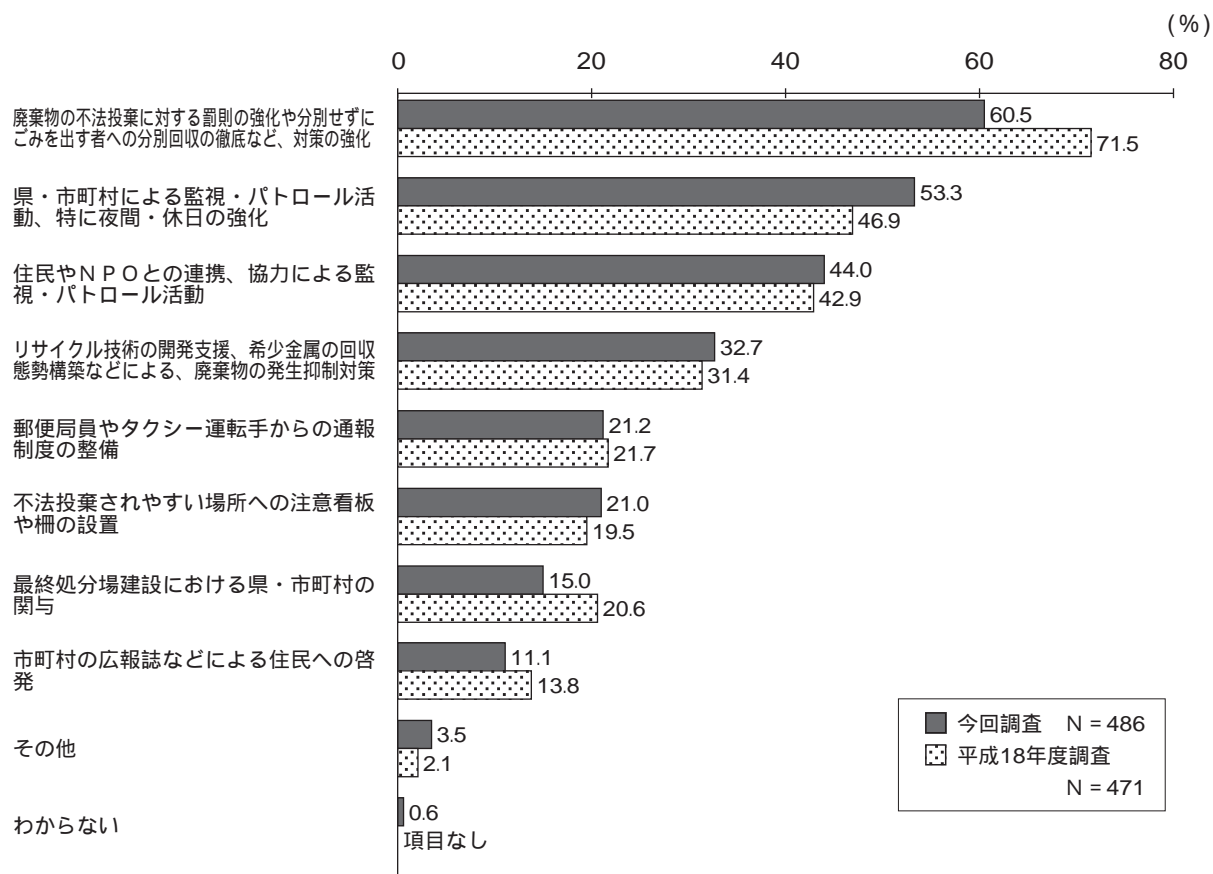
廃棄物の不法投棄や過剰保管の防止、適正な処理の推進のために、県や市町村は何をするべきかを尋ねたところ、「廃棄物の不法投棄に対する罰則の強化や分別せずにごみを出す者への分別回収の徹底など、対策の強化」が60.5%、「県・市町村による監視・パトロール活動、特に夜間・休日の強化」が53.3%、「住民やNPOとの連携、協力による監視・パトロール活動」が44.0%、「リサイクル技術の開発支援、希少金属の回収態勢構築などによる、廃棄物の発生抑制対策」が32.7%などとなっている。

男女別にみると、「住民やNPOとの連携、協力による監視・パトロール活動」と答えた人の割合は、男性の方が女性より10ポイント以上高い一方で、「リサイクル技術の開発支援、希少金属の回収態勢構築などによる、廃棄物の発生抑制対策」と答えた人の割合は、女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

(男女別)



(廃棄物の不法投棄や過剰保管の防止、適正な処理の推進のために、県や市町村は何をするべきか(時系列比較))



「廃棄物の不法投棄に対する罰則の強化や分別せずにごみを出す者への分別回収の徹底など、対策の強化」、「県・市町村による監視・パトロール活動、特に夜間・休日の強化」と半数以上の方が回答しています。

また、前回調査と比較して、“罰則の強化”をするべきと回答した人が減少している一方で、“監視・パトロールの強化”をするべきであると回答した人が増加していることから、規制行政だけでなく、不法投棄の未然防止を目的とした住民や行政によるパトロールなどの取組も期待されていることがうかがえます。

本県としても規制行政だけでなく、パトロール活動の実施など、より一層の取組の推進を図っていきます。

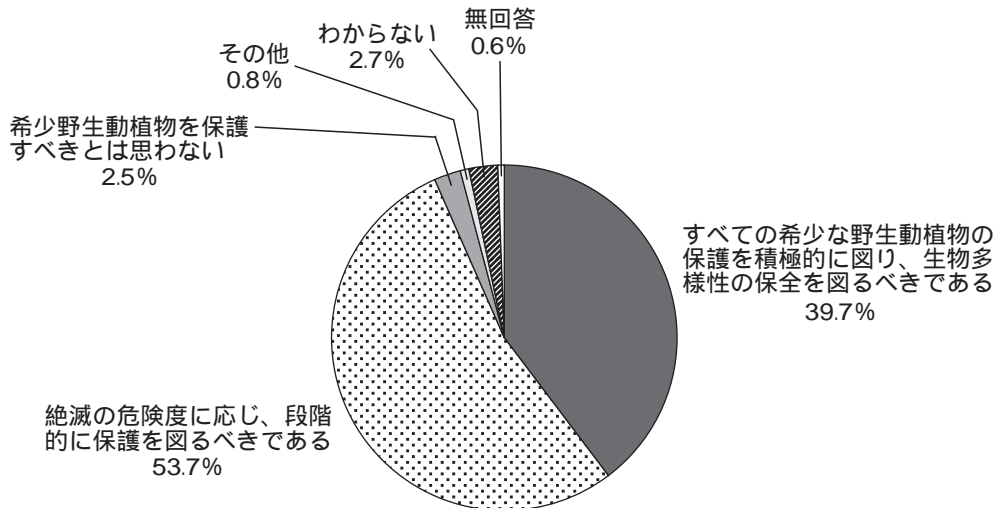
(環境部資源循環推進課)

6 自然、水辺とのふれあい

問16 県内の野生動植物には、絶滅の危機に瀕しているものや、将来的に絶滅の可能性があるようなものがあり、生物多様性が脅かされています。

あなたは、これら希少な野生動植物の保護や生物多様性の保全について、どのように思いますか。(回答は1つ)

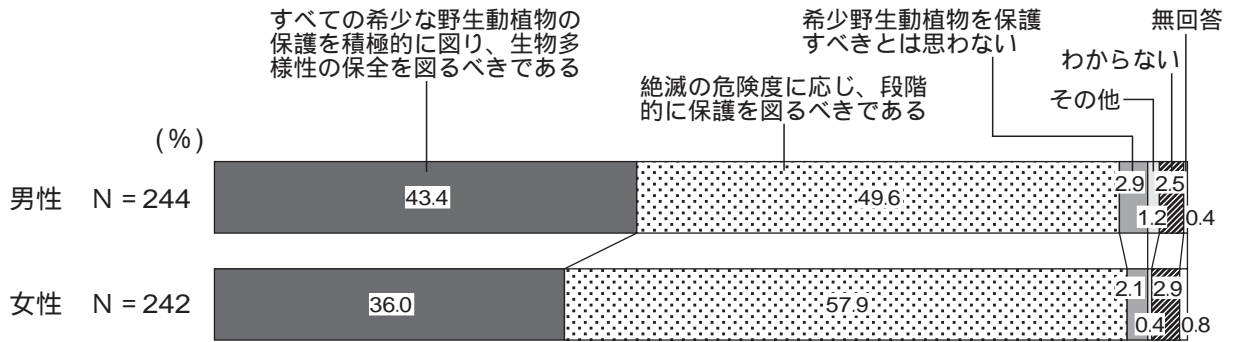
N = 486



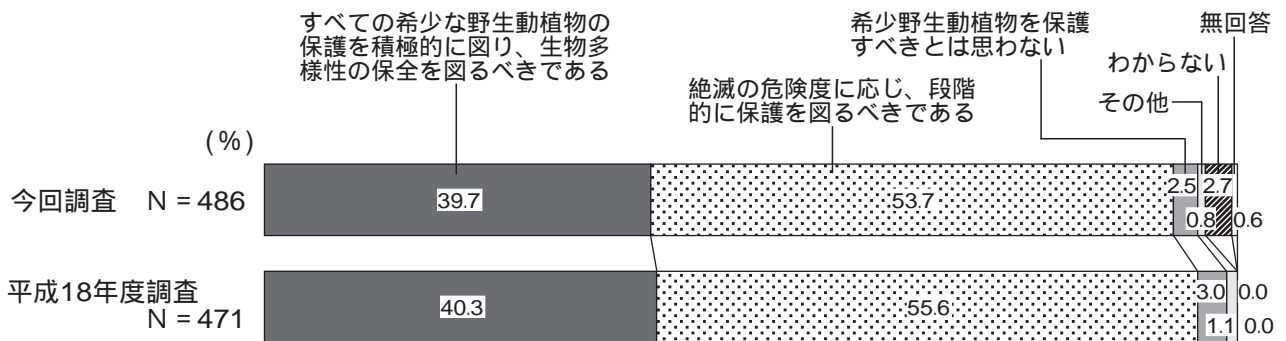
希少な野生動植物の保護や生物多様性の保全について、どう思うかを尋ねたところ、「絶滅の危険度に応じ、段階的に保護を図るべきである」が53.7%、「すべての希少な野生動植物の保護を積極的に図り、生物多様性の保全を図るべきである」が39.7%、「希少野生動植物を保護すべきとは思わない」が2.5%となっている。

男女別にみると、「絶滅の危険度に応じ、段階的に保護を図るべきである」と答えた人の割合は、女性の方が男性より高くなっている。

(男女別)



(希少な野生生物の保護や生物多様性の保全について (時系列比較))



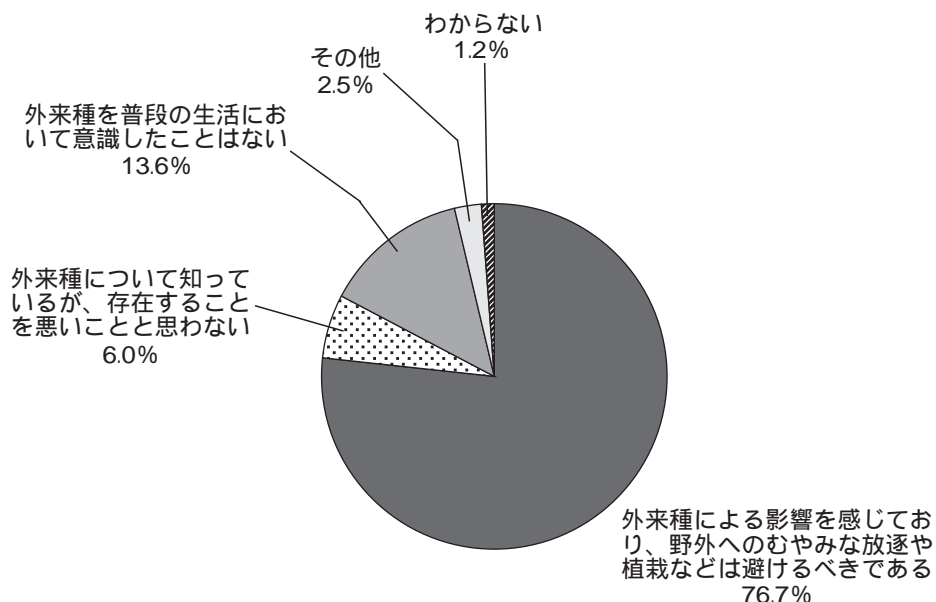
全体の半数以上は「絶滅の危険度に応じ、段階的に保護を図るべきである」と回答しており、全体の約4割は「すべての希少な野生動植物の保護を積極的に図り、生物多様性の保全を図るべきである」と回答しています。

このため、レッドデータブックによる希少動植物に関する情報の周知や、生態系ネットワークの形成による生息・生育環境の保全など、生物多様性の保全のための施策を効果的に実施していくことが必要と考えています。

(環境部自然環境課)

問17 外来種とは、アライグマやオオキンケイギクなど、本来は国内もしくは県内にいない野生動植物が、人間活動によって海外もしくは県外から持ち込まれ野外に放たれたものをいいます。こうした外来種について、あなたはどのように考えていますか。(回答は1つ)

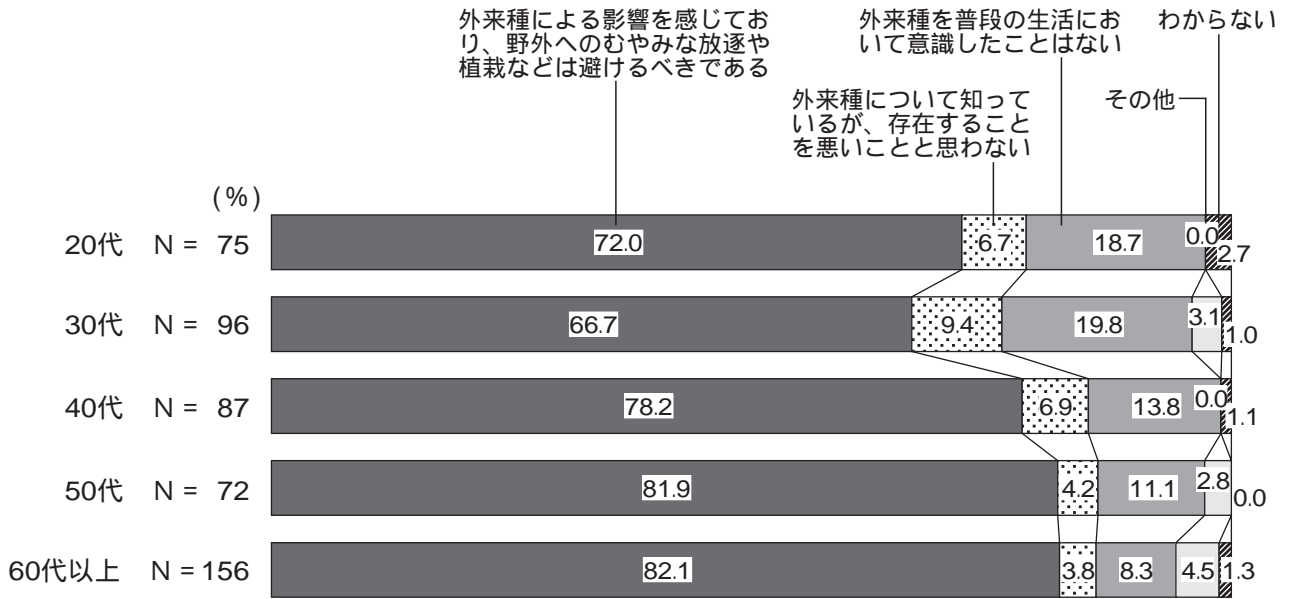
N = 486



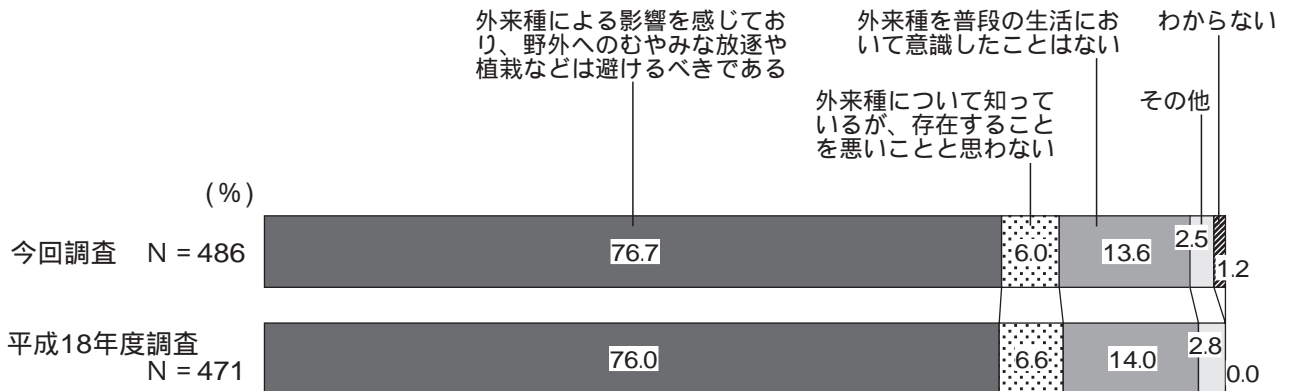
外来種についてどのように考えているかを尋ねたところ、「外来種による影響を感じており、野外へのむやみな放逐や植栽などは避けるべきである」が76.7%、「外来種を普段の生活において意識したことはない」が13.6%、「外来種について知っているが、存在することを悪いことと思わない」が6.0%などとなっている。

年代別にみると、「外来種を普段の生活において意識したことはない」と答えた人の割合は、20代、30代で高いが、以後年代が上がるほど低くなっている。

(年代別)



(外来種についてどのように考えているか (時系列比較))



全体では75%以上の方が「外来種による影響を感じており、野外へのむやみな放逐や植栽などは避けるべきである」と回答しており、外来種の影響を身近に感じている人が多いことがうかがえます。その一方で、1割以上の方が「外来種を普段の生活において意識したことはない」と回答しています。

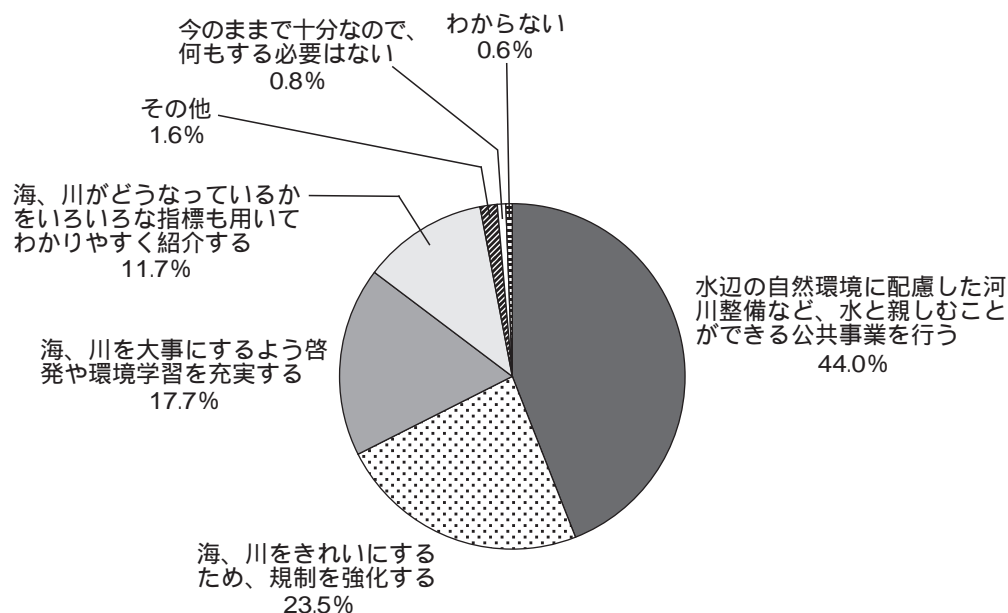
本県で定める公表種の分布状況や生態系への影響等の情報について周知し、生物多様性の保全意識のより一層の高揚を図っていくことが重要であると考えています。

(環境部自然環境課)

問18 海などの水質が改善されないことや、親水空間の減少など水を取り巻く環境の変化に伴い、水と親しむ機会が減少しています。

水と親しむ機会を増やすために県は何をするべきですか。(回答は1つ)

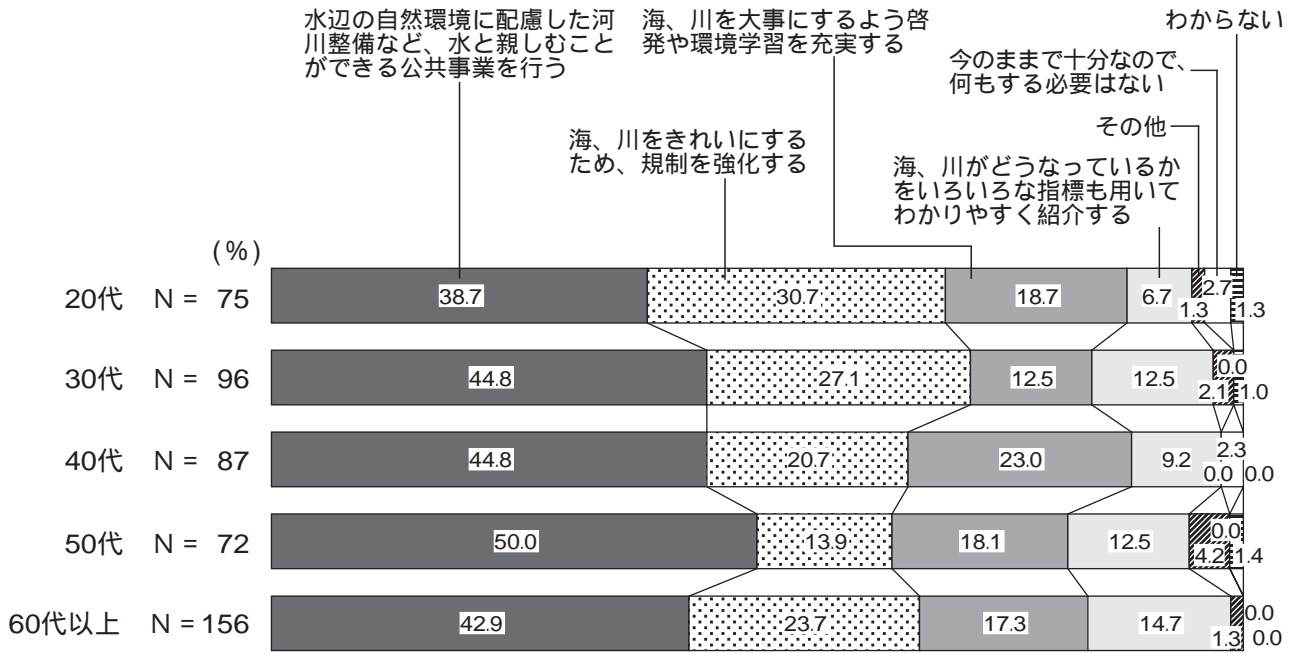
N = 486



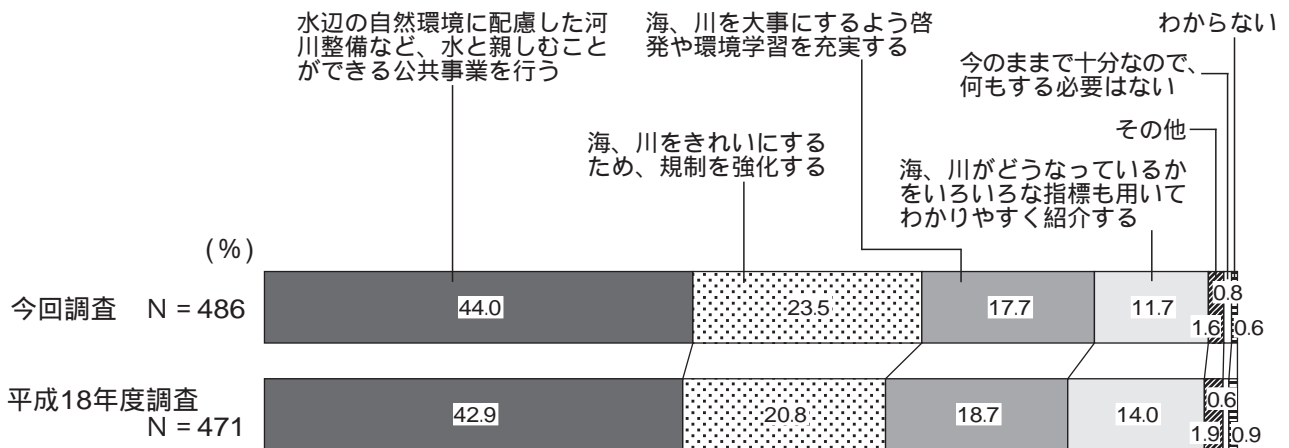
水と親しむ機会を増やすために県は何をするべきかを尋ねたところ、「水辺の自然環境に配慮した河川整備など、水と親しむことができる公共事業を行う」が44.0%、「海、川をきれいにするため、規制を強化する」が23.5%、「海、川を大事にするよう啓発や環境学習を充実する」が17.7%、「海、川がどうなっているかをいろいろな指標も用いてわかりやすく紹介する」が11.7%などとなっている。

年代別にみると、50代では「水辺の自然環境に配慮した河川整備など、水と親しむことができる公共事業を行う」と答えた人の割合が高く、20代では「海、川をきれいにするため、規制を強化する」と答えた人の割合が他の年代に比べて高くなっている。

(年代別)



(水と親しむ機会を増やすために県は何をするべきか (時系列比較))



全体の4割以上の方が「水辺の自然環境に配慮した河川整備など、水と親しむことができる公共事業を行う」と回答しており、約2割が「海、川をきれいにするため、規制を強化する」と回答しています。また、「海、川を大事にするよう啓発や環境学習を充実する」と回答した人も約2割います。

こうしたことから、河川や海域の水質を改善するための規制のみならず、「河川整備などの水辺の環境整備」や啓発など水と親しむ場所や機会を増やす取組を進めていきたいと考えています。

(環境部水地盤環境課)

7 自由意見

問19 これからの環境保全の方向性についてご意見・ご提案等があれば、ご自由に記述してください。

県の環境保全の方向性について、自由に意見を記入していただいたところ、266件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 地球温暖化や省エネルギーについて	16
(2) COP10を契機とした生物多様性の保全への取組について	17
(3) 自然環境について	19
(4) 廃棄物問題について	39
(5) 自動車騒音や排気ガスについて	2
(6) 工場・事業場からの空気の汚れやにおいについて	1
(7) 川や海の汚れについて	9
(8) 環境学習、環境保全活動の促進について	65
(9) 企業活動、地域活動への支援について	24
(10) 環境保全活動と経済活動の関係について	32
(11) その他	42
合 計	266

(1) 地球温暖化や省エネルギーについて

太陽光発電などへの助成金を増額して欲しい。

なるべく車を使わず公共交通機関を利用する、冷房の設定温度を1度上げる、というようにできることから始めていきたい。何より一人一人の心がけが大切だと思う。

片苦しく考えず、身近にできることからすることが、長続きすると思う。特に今年の節電について、日頃から実施していれば、抵抗無く実施できる。継続できるようにしないと、長続きしないと思う。

(2) COP10を契機とした生物多様性の保全への取組について

希少野生動植物の保護より人体に悪影響を与える生物の駆除を優先的に行って欲しい。

外来種により在来種が駆逐されてしまっているのを見かけるので駆除して欲しい。

国と一体となって外来種の規制を実施して欲しい。

外来種をペットとして飼っていて、いらなくなったら放すということほど身勝手なことはないと思う。制限や罰則を強化するべきだと思う。

C O P 10や生物多様性の内容や意味をどれだけの人々が理解しているか疑問に思うことがある。身近なことであると感じられると良いと思う。飼育していた外来種を無責任に放置する人に罰則を課さない限り外来種の問題はなくならないと思う。

去年はC O P 10の関連イベントが多く見られたが、C O P 10閉幕後は、C O P 10の成果・理念を継承する取組があまり見られないので、もっと開催して欲しい。

C O P 10の関連イベントに親子で参加したが、様々な企業や団体が参加しており、おどろきと発見の連続だった。子供は特に希少野生動植物に関心を深めていた。こうしたイベントが今後も開催されればと思う。

C O P 10が開催されて、私も市が主催した植樹イベントに参加した。個人では何から手をつけてよいかわからないので、市町村や県が自然を保護する機会などを企業や個人に提案して欲しい。

(3) 自然環境について

河川の整備等を行う際に、洪水対策や事故防止のためにコンクリートで固めているが、野生動物の保護のためにも、もう少し自然な形を残した状態を保って欲しい。

昔のように自然があふれる環境を取り戻す為の施策に取り組んで欲しい。

高齢化や過疎化により里山の保全が困難となった。また、山林の荒廃により、山では動物の餌が少なくなり、田・畑をあらすことが多くなった。東三河では高齢化により、「花祭り」等の伝統も廃れていってしまっている。自然との共生が生活の基盤を支えられるものであれば、人口が増加するのではないかと思う。

自然を保護するために手を加えすぎてかえって自然を破壊している場合があるので、昔からの自然の姿を残せるよう、手を加えるのは最小限にして欲しい。

身近な水田、小さな川や用水路を大切にすることが環境保護の入口であると思う。

(4) 廃棄物問題について

不法投棄には更なる監視と罰則の強化を望む。

巡回監視を強化して欲しい。

ごみの分別や買い物袋の有料化などで環境保全意識は高まったと思う。電化製品やごみの不法投棄は厳しく取り締まることで減少させることができると思う。また、住居近辺の清掃日を決めて大

勢の人に参加してもらい、いかにきれいにすることが大切かを知らしめる必要がある。

川などにごみが捨てられているのを見かけるが、自分さえ良ければ良いという考えの人の行動だと思う。そういう考えの人がいることが情けない。

既存の製品については、できる限り自然に戻すことができないか検討すべきであり、新しい製品については無駄なごみになるような使い捨てのものは作らないことが重要だと思う。

車からのポイ捨てをするドライバーへの罰則があっても良いと思う。

環境保全には自治体が積極的に取り組み、それに住民が参加できる仕掛けをつくる必要がある。不法投棄についてはもっと監視を厳しくして、必要ならば現場周辺の住民も協力すべきである。

(5) 自動車騒音や排気ガスについて

全国に先駆けて自転車の走りやすい街にして欲しい。

(6) 工場・事業場からの空気の汚れやにおいについて

近所の工場からばい煙等が排出されているので、規制して欲しい。

(7) 川や海の汚れについて

工場が有害な物質を流していないかなど、川の調査を定期的にして欲しい。

昔から童謡で歌われている「赤とんぼ」や「めだか」など、水辺の動植物が家庭からの生活排水による水質悪化のために減っている。家庭での洗剤や漂白剤の使いすぎを指導して欲しい。

海を守るためにはまず川を守る必要があるので、身近にある川の水質の改善をすすめて欲しい。

水遊びできる川が近くにないのが非常に残念である。景観的にも水がきれいな川というのは心地が良いので、河川の水質浄化に力を入れて欲しい。

川や海の汚染は地球全体にも影響があると思うので、これ以上汚さないと同時に、水質を浄化していくことも大事だと思う。人間だけでなく他の動植物や自然のことも考えて皆で取り組むことが重要だと思う。

(8) 環境学習、環境保全活動の促進について

義務教育での環境に関する啓発が最も重要と考える。

一人一人の環境保全に関する意識を啓発することが求められている。

企業の環境に対する認識も高めていかなければならないと思う。

自然とふれあう場を作り体験学習を通じ保全の大切さを学ばせると良いと思うので、学校教育の場で環境学習の機会を増やすべき。

環境について一人一人が考える機会をより多く持つための場所、時間作りが県に求められるものの一つであると思う。一人一人の取り組みが大切で、何事も一人の活動からしか始まらない認識を持ってもらうことが大切だと思う。

環境保全については皆が意識して協力していかないといけないと思う。

植樹や河川清掃等の活動に参加したくてもどのようにすればよいのかわからない人も多いと思うので、気軽に参加できる仕組みづくりが重要だと思う。

活動を継続させるため、自然体で取り組めるような環境保全活動を推進すると良い。

県の事業として粘り強く県民に広く、各年齢層別に環境保全のための教育、啓発をすることが大切で必要であると思う。

一人一人の行動が環境保全に大きく左右されるので、環境保全意識の低い人を平均まで引き上げるようにすることが行政の仕事であり、大切なことであると思う。

自分達の住んでいる地域が好きになれば、住民は自ずと環境にも配慮するようになると思う。地域間の交流や、地元により多く住民が定着するような取組を県は推進するべき。

(9) 企業活動、地域活動への支援について

環境保全は行政と地域そして団体等が一体となって、目的を共有し、地道に推し進めるものだと思う。定年退職後の高齢者が積極的に環境活動に参加できる機会を行政が提供し、それぞれの地域の環境保全を進め、評価してはどうか。

環境保全は人間だけでなく生物全体にとって基本的な課題であるので、最優先で取り組むべきだと思う。

環境保全に取り組む企業を表彰する必要があると思う。

環境保全だけという取り組みだけでなく、地域社会・地域経済を絡めた活動にして欲しい。

環境ビジネスを行っている中小企業などに積極的な支援をすることが必要だと考える。

(10) 環境保全活動と経済活動の関係について

経済活動と環境保全活動とは両立すべきと思う。両立することにより、環境保全意識の高い社会になっていくと思う。

環境保全は、県や市町村だけでは困難であり、国、世界各国と協調して行うことが最も大切である。単独での行き過ぎた環境への取組は、経済には必ず悪影響となるので、バランスのよい、かつ持続可能な取組を期待する。

エコポイントのように「お得感」を得られる制度が魅力的だと思う。

環境保全は経済的活動からみるとブレーキ役になるので、経済活動が優先されがちである。このため、環境保全を進めるためには規制が必要であると思うが、国内外のバランスも考えていくべき。また、全体的には、国や自治体の積極的な支援・関与がないと進んでいかない気がする。

環境保全は、生活や経済のことを考えると2番目、3番目に重要なことと挙げる人が多いと思うが、これからは特に大切なことであると思う。環境のことを1番に考えていける県政にして欲しい。そうでなければ、自分たちの生活も経済も長く続かないと思う。

(11) その他

積極的に取り組んでいる施策についてマスコミを利用して市民に広報することで、市民の環境保全への自覚も生まれるように思う。

環境保全の必要性を一般の市民に広く伝えていくためにも環境の状態等をデータで提示して協力を得ることが必要であると思う。

環境保全をテーマにした講演会やセミナーなどをインターネットで動画配信してはどうか。

放射能に汚染された地域の土壌回復支援や除染するための新技術の開発に力を入れるべきだと思う。

質問と回答 (単位...「総数」：人、「総数」以外：%、四捨五入により合計は必ずしも100%にならない)

1 環境に関する取組と行政の役割

問1 私たちの身の回りには、自動車の走行などに伴う大気汚染や騒音、生活排水による水質汚濁、廃棄物を始めとする日常生活における公害問題から、地球温暖化や生物多様性の保全など地球規模の問題まで、多様な環境問題が存在しています。

こうした状況の中、今あなたが最も関心のある環境問題は何ですか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 地球温暖化や省エネルギーなど地球環境に関すること	57.6	55.7	59.5	54.6	59.9	57.5	58.7	61.5	62.1	58.3	51.9
2 生物多様性の保全など自然環境に関すること	8.8	11.1	6.6	11.8	7.2	7.9	5.3	8.3	4.6	11.1	12.2
3 廃棄物問題	10.3	11.1	9.5	7.2	12.1	11.0	5.3	6.3	11.5	6.9	16.0
4 自動車騒音・排ガス	2.1	2.0	2.1	2.6	2.4	0.8	5.3	3.1	2.3	0.0	0.6
5 工場・事業場からの空気の汚れやにおい	2.3	2.5	2.1	2.6	1.0	3.9	6.7	3.1	1.1	1.4	0.6
6 川や海の汚れ	6.4	5.3	7.4	8.6	4.3	7.1	4.0	6.3	4.6	9.7	7.1
7 身のまわりの化学物質	5.1	4.9	5.4	5.3	6.3	3.1	8.0	5.2	4.6	1.4	5.8
8 環境学習・教育	2.1	1.6	2.5	2.0	1.4	3.1	2.7	2.1	0.0	1.4	3.2
9 その他	3.9	3.7	4.1	4.6	3.9	3.1	2.7	3.1	6.9	8.3	1.3
10 環境問題に関心がない	0.4	0.8	0.0	0.7	0.5	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.6
11 わからない	0.2	0.4	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0
無回答	0.8	0.8	0.8	0.0	0.5	2.4	0.0	1.0	1.1	1.4	0.6

問2 あなたが、毎日の暮らしの中で環境に配慮するために、どのような取組をしていますか。

(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 冷暖房を控えるなど省エネルギーや節電に心がける	85.8	84.0	87.6	86.8	84.5	86.6	76.0	92.7	82.8	87.5	87.2
2 地域に昔から生えている樹木などを植えて緑を増やす	10.5	11.5	9.5	9.2	11.1	11.0	8.0	9.4	10.3	11.1	12.2
3 自然観察会や環境学習事業への参加	10.3	12.7	7.9	12.5	11.1	6.3	4.0	6.3	9.2	15.3	14.1
4 地域のごみの分別ルールを守る	82.5	79.5	85.5	82.2	81.6	84.3	66.7	87.5	83.9	83.3	85.9
5 食べ残しや作りすぎをしないなど、生ごみの減量化に努める	65.8	59.4	72.3	60.5	66.7	70.9	58.7	76.0	60.9	69.4	64.1
6 過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋・エコバッグを持参する	82.1	75.4	88.8	82.2	82.1	81.9	66.7	90.6	78.2	87.5	84.0
7 修理できるものは修理し、不要なものはバザーやリサイクルショップを利用する	51.4	49.6	53.3	48.7	52.2	53.5	53.3	59.4	49.4	52.8	46.2
8 台所から調理くずや油を流さない、洗剤の使用量を抑えるなど、生活排水による水質汚濁に気をつける	51.4	39.8	63.2	49.3	53.6	50.4	40.0	55.2	46.0	55.6	55.8
9 自動車を利用する場合は、アイドリングストップに心がけたり、空ふかしをしないなどエコドライブに努める	49.0	55.7	42.1	37.5	51.2	59.1	37.3	57.3	48.3	40.3	53.8
10 自動車の利用をできる限り控え、公共交通機関や自転車を利用する	39.7	42.6	36.8	47.4	38.2	33.1	38.7	40.6	25.3	41.7	46.8
11 環境に配慮していると思われるエコラベルやフェアトレード、地産地消、省エネなどに取り組んでいる企業の商品や家電を優先的に購入する	20.2	18.0	22.3	18.4	23.2	17.3	14.7	20.8	20.7	25.0	19.9
12 農薬や殺虫剤などの化学物質を必要以上に使わないよう心がける	33.7	30.3	37.2	30.3	39.6	28.3	25.3	30.2	26.4	36.1	42.9
13 その他	2.7	3.7	1.7	4.6	1.4	2.4	1.3	5.2	1.1	2.8	2.6
14 環境に配慮した行動について、あまり気にしていない	0.8	1.6	0.0	0.7	1.0	0.8	4.0	0.0	0.0	0.0	0.6
15 わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.2	0.4	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0

問3 問2で回答された取組以外に、あなたがこれから取り組もうと考えている、又は、取り組む必要があると思うものは何ですか。(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 冷暖房を控えるなど省エネルギーや節電に心がける	21.8	20.5	23.1	20.4	22.2	22.8	24.0	13.5	25.3	27.8	21.2
2 地域に昔から生えている樹木などを植えて緑を増やす	32.7	33.6	31.8	33.6	30.9	34.6	25.3	40.6	27.6	30.6	35.3
3 自然観察会や環境学習事業への参加	22.2	21.7	22.7	22.4	22.2	22.0	12.0	22.9	23.0	19.4	27.6
4 地域のごみの分別ルールを守る	16.9	13.9	19.8	17.1	14.5	20.5	18.7	12.5	17.2	18.1	17.9
5 食べ残しや作りすぎをしないなど、生ごみの減量化に努める	23.5	22.1	24.8	24.3	21.7	25.2	22.7	16.7	24.1	25.0	26.9
6 過剰包装やレジ袋を辞退したり、買い物袋・エコバッグを持参する	17.9	13.9	21.9	15.8	15.9	23.6	25.3	12.5	14.9	18.1	19.2
7 修理できるものは修理し、不要なものはバザーやリサイクルショップを利用する	32.3	28.3	36.4	28.9	32.9	35.4	22.7	26.0	39.1	38.9	34.0
8 台所から調理くずや油を流さない、洗剤の使用量を抑えるなど、生活排水による水質汚濁に気をつける	28.0	25.0	31.0	27.6	26.6	30.7	24.0	25.0	26.4	36.1	28.8
9 自動車を利用する場合は、アイドリングストップに心がけたり、空ふかしをしないなどエコドライブに努める	28.8	24.6	33.1	28.3	28.0	30.7	34.7	24.0	27.6	37.5	25.6
10 自動車の利用をできる限り控え、公共交通機関や自転車を利用する	35.0	31.1	38.8	30.3	37.7	36.2	24.0	38.5	40.2	36.1	34.6
11 環境に配慮していると思われるエコラベルやフェアトレード、地産地消、省エネなどに取り組んでいる企業の商品や家電を優先的に購入する	39.5	37.7	41.3	38.2	39.1	41.7	34.7	44.8	34.5	38.9	41.7
12 農薬や殺虫剤などの化学物質を必要以上に使わないよう心がける	22.6	23.0	22.3	21.1	21.7	26.0	16.0	26.0	16.1	18.1	29.5
13 その他	2.7	3.3	2.1	1.3	4.3	1.6	1.3	2.1	1.1	9.7	1.3
14 環境に配慮した行動について、あまり気にしていない	0.8	1.6	0.0	0.7	1.0	0.8	4.0	0.0	0.0	0.0	0.6
15 わからない	0.8	1.6	0.0	2.0	0.5	0.0	1.3	0.0	1.1	1.4	0.6
無回答	0.2	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6

問4 問2及び問3で回答された取組を県民の間に効果的に浸透させるために、県は何をするべきですか。(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 太陽光発電や省エネなどエネルギー効率を高め、温室効果ガスの排出抑制に努める取組を進める者に、経済的なメリットを与える仕組みを設ける	64.6	67.2	62.0	63.2	67.1	62.2	64.0	65.6	69.0	66.7	60.9
2 生物多様性の保全に関する情報を共有するための機会を設ける	22.0	22.1	21.9	25.0	21.3	19.7	17.3	17.7	20.7	25.0	26.3
3 自然観察会や植樹、エコドライブ講習会などの環境について学習できる機会を充実させる	31.5	30.3	32.6	25.0	31.4	39.4	22.7	28.1	32.2	25.0	40.4
4 レジ袋辞退やリサイクル製品の製造など率先的に環境活動に取り組む者に、経済的なメリットを与える仕組みを設ける	57.2	56.6	57.9	56.6	54.6	62.2	61.3	64.6	63.2	55.6	48.1
5 環境保全団体や地域の環境リーダー等の育成・支援を進める	23.5	26.2	20.7	16.4	31.4	18.9	18.7	21.9	18.4	19.4	31.4
6 広報や情報公開により環境に関する情報の共有化・見える化を進める	37.0	35.2	38.8	40.8	35.7	34.6	28.0	37.5	33.3	37.5	42.9
7 その他	4.7	5.3	4.1	6.6	2.4	6.3	4.0	6.3	4.6	4.2	4.5
8 特にするべきことはない	0.4	0.8	0.0	0.0	0.0	1.6	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
9 わからない	1.4	1.6	1.2	2.6	1.0	0.8	4.0	2.1	0.0	1.4	0.6
無回答	0.4	0.0	0.8	0.7	0.5	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.6

2 COP10を契機とした生物多様性の保全への取組

問5 昨年(2010年)10月に愛知・名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されました。あなたは、生物多様性の保全を目的としたCOP10を契機に、生物多様性の保全に対する意識や行動が変わりましたか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 生物多様性の保全に対する意識が高まり、生物多様性の保全に配慮した取組を行うようになった	8.0	11.9	4.1	3.9	10.1	9.4	8.0	2.1	11.5	8.3	9.6
2 生物多様性の保全に対する意識が高まったが、具体的な取組をするまでには至っていない	28.0	31.1	24.8	38.2	21.7	26.0	24.0	14.6	24.1	26.4	41.0
3 「生物多様性」という言葉を知ることができたが、その保全意識の高まりや、具体的な行動には至っていない。	39.1	31.6	46.7	36.8	43.5	34.6	37.3	39.6	39.1	40.3	39.1
4 その他	0.4	0.4	0.4	0.0	0.5	0.8	0.0	1.0	0.0	1.4	0.0
5 特にこれまでと変わらない	22.6	23.0	22.3	19.1	22.7	26.8	29.3	36.5	25.3	23.6	9.0
6 わからない	1.9	2.0	1.7	2.0	1.4	2.4	1.3	6.3	0.0	0.0	1.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問6 COP10では、会場の内外において様々な環境に関する取組が行われましたが、COP10の成果として、あなたが最も評価できるものは何ですか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 多くの国が参加した国際会議が開催されたこと	24.1	21.7	26.4	23.7	20.8	29.9	22.7	25.0	37.9	22.2	17.3
2 生物多様性保全に関し、国際的な合意が得られたこと	21.6	27.5	15.7	21.1	22.2	21.3	22.7	20.8	23.0	19.4	21.8
3 様々な催し物の開催により、生物多様性に関する理解や関心が進んだこと	31.1	28.7	33.5	32.2	35.3	22.8	26.7	21.9	24.1	31.9	42.3
4 多くの国の人に愛知・名古屋を知ってもらえたこと	10.3	9.8	10.7	11.8	11.1	7.1	9.3	11.5	5.7	11.1	12.2
5 その他	1.2	1.2	1.2	2.0	0.0	2.4	0.0	3.1	0.0	2.8	0.6
6 わからない	11.5	10.7	12.4	9.2	10.6	15.7	18.7	17.7	8.0	12.5	5.8
無回答	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0

問7 生物多様性の保全に向けて、あなたがこれから取り組もうと考えている、又は、取り組む必要があると思うものは何ですか。(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 身近な生き物を見つけ暮らしと生き物たちとのかわりを考える	34.8	38.1	31.4	38.8	32.9	33.1	34.7	33.3	34.5	27.8	39.1
2 地元でとれた農作物や木材などを購入する	60.1	54.5	65.7	56.6	59.4	65.4	48.0	66.7	66.7	50.0	62.8
3 余分なものは買わない	75.5	72.1	78.9	72.4	74.9	80.3	73.3	77.1	77.0	69.4	77.6
4 地域に昔から生えている樹木などを植えて緑を増やす	30.0	32.4	27.7	28.9	32.4	27.6	34.7	29.2	26.4	23.6	33.3
5 生活排水による水質汚濁を減らすような取組を行う	59.9	54.9	64.9	59.2	57.5	64.6	58.7	58.3	64.4	48.6	64.1
6 外来生物のペットを自然に放さない	50.2	46.3	54.1	53.9	51.7	43.3	46.7	47.9	57.5	48.6	50.0
7 河川や浜辺の清掃活動に参加する	35.2	41.0	29.3	32.9	36.2	36.2	26.7	41.7	43.7	23.6	35.9
8 間伐体験に参加する	11.9	13.5	10.3	11.2	12.6	11.8	9.3	21.9	11.5	6.9	9.6
9 生物多様性の保全に配慮して生産されたエコラベル商品を購入する	32.1	31.6	32.6	28.3	36.7	29.1	26.7	30.2	27.6	29.2	39.7
10 その他	3.1	3.7	2.5	2.6	2.4	4.7	2.7	6.3	0.0	4.2	2.6
11 特にすべきことはない	0.6	1.2	0.0	0.7	0.5	0.8	1.3	1.0	0.0	0.0	0.6
12 わからない	1.0	1.2	0.8	1.3	1.4	0.0	2.7	1.0	0.0	1.4	0.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問8 生物多様性の保全に関して、県全体で推進するとよいと思う取組はどれですか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 優れた自然の保全や失われた自然の回復を進め、生物の生息生育空間を保全する	52.5	53.3	51.7	52.0	49.8	57.5	46.7	58.3	54.0	51.4	51.3
2 県内の野生生物の生息生育状況を調査・把握する	11.5	12.7	10.3	10.5	14.5	7.9	17.3	8.3	8.0	12.5	12.2
3 希少な野生生物について、捕獲採取規制や生息地の保全などを行う	10.1	11.1	9.1	11.8	11.1	6.3	10.7	9.4	13.8	6.9	9.6
4 県内の生物多様性に悪影響を与える外来生物の駆除を行う	21.2	17.2	25.2	18.4	22.7	22.0	18.7	12.5	23.0	26.4	24.4
5 その他	1.2	1.6	0.8	2.0	0.5	1.6	1.3	2.1	0.0	1.4	1.3
6 特にすべきことはない	0.4	0.0	0.8	0.7	0.0	0.8	1.3	1.0	0.0	0.0	0.0
7 わからない	2.7	3.3	2.1	3.9	1.4	3.1	4.0	8.3	1.1	0.0	0.6
無回答	0.4	0.8	0.0	0.7	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	1.4	0.6

3 環境学習・環境保全への取組

問9 あなたは、環境に関する知識や活動方法を学ぶ環境学習活動、又は、野生動植物の観察や里地里山の保全といった自然環境保全に向けた活動に参加したことはありますか。又は、参加したいと思いませんか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 参加したことがある、又は参加している	15.2	16.8	13.6	20.4	12.6	13.4	12.0	10.4	17.2	16.7	17.9
2 これから積極的に参加したい	4.3	4.9	3.7	5.3	3.9	3.9	4.0	4.2	2.3	2.8	6.4
3 機会があれば参加したい	47.9	45.5	50.4	44.7	49.8	48.8	36.0	43.8	51.7	41.7	57.1
4 参加したいと思うが、時間に余裕がないなど、難しい	22.8	24.2	21.5	18.4	26.1	22.8	38.7	27.1	24.1	23.6	11.5
5 参加したいと思わない、又は興味がない	6.2	5.3	7.0	7.9	4.3	7.1	8.0	10.4	3.4	6.9	3.8
6 その他	1.6	1.6	1.7	0.0	2.4	2.4	1.3	1.0	0.0	5.6	1.3
7 わからない	1.4	0.8	2.1	2.6	0.5	1.6	0.0	3.1	0.0	2.8	1.3
無回答	0.4	0.8	0.0	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.6

問10 現在、県、市町村、企業、NPOなど様々な団体が環境に関する取組を実施しています。

あなたが参加してみたいと思うものは何ですか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 エコツアーなど自然を体感する事業	28.0	27.9	28.1	28.9	27.5	27.6	24.0	28.1	32.2	25.0	28.8
2 エコマネーやエコポイントなど自分に何らかの経済的還元のある事業	32.5	31.1	33.9	28.3	35.7	32.3	48.0	41.7	35.6	37.5	15.4
3 環境に関する知識が得られる講演会、研修会等	17.7	18.9	16.5	19.1	19.3	13.4	8.0	9.4	13.8	18.1	29.5
4 間伐や植樹活動など地域社会に何らかの貢献ができる事業	13.6	13.5	13.6	13.2	13.0	15.0	8.0	12.5	11.5	8.3	20.5
5 その他	1.0	1.2	0.8	1.3	0.5	1.6	0.0	1.0	1.1	0.0	1.9
6 特に参加したいと思うものはない、又は興味がない	4.7	4.9	4.5	5.9	1.4	8.7	8.0	4.2	3.4	9.7	1.9
7 わからない	1.2	1.2	1.2	2.6	0.5	0.8	0.0	1.0	2.3	1.4	1.3
無回答	1.2	1.2	1.2	0.7	1.9	0.8	4.0	2.1	0.0	0.0	0.6

4 経済活動、企業活動、地域活動への支援

問11 あなたは、経済活動と環境保全の活動の関係について、どのように考えていますか。

(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 経済活動を多少犠牲にしても、環境保全を優先させる	30.7	30.7	30.6	32.9	27.5	33.1	36.0	27.1	27.6	31.9	31.4
2 環境保全を多少犠牲にしても、経済活動を優先させる	2.3	3.3	1.2	2.6	2.4	1.6	5.3	1.0	1.1	0.0	3.2
3 経済活動と環境保全は両立するものである	36.6	37.3	36.0	42.1	34.3	33.9	32.0	44.8	37.9	33.3	34.6
4 どちらを優先するかは一概には言えない	28.6	27.0	30.2	20.4	33.8	29.9	25.3	26.0	29.9	34.7	28.2
5 その他	0.4	0.4	0.4	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
6 わからない	1.4	1.2	1.7	1.3	1.4	1.6	1.3	1.0	3.4	0.0	1.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問12 多くの企業が環境配慮、環境保全に取り組んでいますが、あなたは、これらの企業にどのような取組を期待しますか。(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 リサイクルしやすい製品など、環境に配慮した製品を作る	63.8	61.9	65.7	57.2	67.1	66.1	56.0	65.6	69.0	59.7	65.4
2 商品をトレイやラップ、包装紙などで過剰包装しない	50.8	45.1	56.6	51.3	50.2	51.2	56.0	49.0	44.8	50.0	53.2
3 事業場から排出される廃棄物を、適正に処理する	43.6	43.4	43.8	43.4	43.0	44.9	38.7	43.8	57.5	48.6	35.9
4 操業に際して発生するばい煙や汚水の処理、騒音・振動対策に適切に対応する	31.7	32.8	30.6	29.6	32.9	32.3	30.7	18.8	29.9	41.7	36.5
5 事業場に保管する有害物質や事業場から排出される物質に関する情報を公開する	18.3	18.4	18.2	19.1	16.9	19.7	12.0	12.5	20.7	12.5	26.3
6 太陽光発電や省エネなどエネルギー効率を高め、温室効果ガスの排出抑制に努める	38.7	38.9	38.4	38.2	41.1	35.4	37.3	53.1	29.9	34.7	37.2
7 植樹などの環境保全活動を通じて社会に貢献する	14.6	15.6	13.6	16.4	13.5	14.2	12.0	13.5	10.3	19.4	16.7
8 従業員の環境教育を進める	12.1	14.3	9.9	9.9	13.5	12.6	10.7	12.5	10.3	9.7	14.7
9 その他	1.9	1.6	2.1	5.3	0.0	0.8	0.0	2.1	2.3	2.8	1.9
10 特に望むことはない	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.8	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0
11 わからない	0.4	0.8	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.6
無回答	0.4	0.4	0.4	0.0	0.5	0.8	1.3	0.0	0.0	1.4	0.0

問13 多くの企業がこれまで以上に環境配慮、環境保全に積極的に取り組むようにするために、県は何をするべきですか。(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 リサイクル製品の販路拡大やリサイクル技術の導入に対する支援をする	63.2	60.2	66.1	55.9	65.2	68.5	54.7	68.8	58.6	58.3	68.6
2 条例により、廃棄物や二酸化炭素の排出を規制する	35.0	36.9	33.1	31.6	38.2	33.9	38.7	28.1	39.1	34.7	35.3
3 条例により、廃棄物や二酸化炭素を大量に排出する者に、経済的な負担をかける	41.6	42.6	40.5	38.8	42.5	43.3	38.7	45.8	33.3	41.7	44.9
4 環境配慮に積極的に取り組む企業を表彰し、公表する	39.1	37.7	40.5	32.2	41.5	43.3	38.7	32.3	47.1	34.7	41.0
5 リサイクル製品の製造や環境ISOの取得に対する財政支援をする	40.3	41.0	39.7	40.1	40.1	40.9	36.0	38.5	39.1	40.3	44.2
6 企業が行う、経営者や従業員の環境教育に関する取組を支援する	23.9	24.2	23.6	24.3	24.2	22.8	18.7	26.0	19.5	20.8	28.8
7 その他	2.5	2.9	2.1	5.3	1.0	1.6	1.3	4.2	2.3	5.6	0.6
8 企業の自主性に任せればよく、何もする必要はない	1.4	1.6	1.2	2.0	1.0	1.6	2.7	1.0	1.1	1.4	1.3
9 わからない	0.8	0.8	0.8	1.3	0.5	0.8	1.3	0.0	1.1	1.4	0.6
無回答	0.4	0.4	0.4	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3

問14 近年、NPOによる環境保全活動が活発になっています。こうした活動を促進するため、県は何をすべきと思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 NPOの活動費用の補助制度を設けるなど、財政支援をする	39.3	41.4	37.2	36.8	40.1	40.9	44.0	37.5	37.9	44.4	36.5
2 NPOに県が行う環境保全イベント等への参画を積極的に呼びかける	29.6	26.6	32.6	28.9	31.4	27.6	29.3	25.0	37.9	23.6	30.8
3 NPOに対する研修会などで情報の提供に努める	12.1	11.9	12.4	12.5	12.1	11.8	5.3	9.4	6.9	15.3	18.6
4 NPOが集える交流の場を設ける	9.5	11.1	7.9	9.9	9.7	8.7	10.7	14.6	6.9	8.3	7.7
5 その他	1.2	0.8	1.7	2.6	0.5	0.8	0.0	2.1	2.3	2.8	0.0
6 NPOの自主性に任せればよく、何もする必要はない	4.9	5.7	4.1	5.3	3.9	6.3	6.7	4.2	4.6	5.6	4.5
7 わからない	3.3	2.5	4.1	3.9	2.4	3.9	4.0	7.3	3.4	0.0	1.9
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5 安全・安心への取組

問15 廃棄物の不法投棄や過剰保管の防止、適正な処理の推進のためには、県や市町村は何をするべきですか。(回答は3つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 県・市町村による監視・パトロール活動、特に夜間・休日の強化	53.3	53.3	53.3	52.0	55.6	51.2	60.0	51.0	65.5	54.2	44.2
2 住民やNPOとの連携、協力による監視・パトロール活動	44.0	50.0	38.0	38.8	48.3	43.3	38.7	37.5	36.8	38.9	57.1
3 郵便局員やタクシー運転手からの通報制度の整備	21.2	24.6	17.8	19.7	21.3	22.8	20.0	31.3	24.1	18.1	15.4
4 不法投棄されやすい場所への注意看板や柵の設置	21.0	18.0	24.0	21.1	20.8	21.3	18.7	20.8	24.1	22.2	19.9
5 廃棄物の不法投棄に対する罰則の強化や分別せずつごみを出す者への分別回収の徹底など、対策の強化	60.5	56.6	64.5	64.5	57.5	60.6	56.0	54.2	63.2	62.5	64.1
6 最終処分場建設における県・市町村の関与	15.0	17.2	12.8	13.2	14.5	18.1	18.7	15.6	10.3	16.7	14.7
7 市町村の広報誌などによる住民への啓発	11.1	12.7	9.5	11.2	11.6	10.2	13.3	7.3	8.0	9.7	14.7
8 リサイクル技術の開発支援、希少金属の回収態勢構築などによる、廃棄物の発生抑制対策	32.7	27.0	38.4	33.6	31.9	33.1	26.7	28.1	23.0	34.7	42.9
9 その他	3.5	2.5	4.5	5.3	1.9	3.9	2.7	8.3	2.3	0.0	3.2
10 わからない	0.6	0.8	0.4	1.3	0.0	0.8	0.0	2.1	0.0	1.4	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

6 自然、水辺とのふれあい

問16 県内の野生動植物には、絶滅の危機に瀕しているものや、将来的に絶滅の可能性があるようなものがあり、生物多様性が脅かされています。あなたは、これら希少な野生動植物の保護や生物多様性の保全について、どのように思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 すべての希少な野生動植物の保護を積極的に図り、生物多様性の保全を図るべきである	39.7	43.4	36.0	43.4	36.7	40.2	41.3	34.4	41.4	36.1	42.9
2 絶滅の危険度に応じ、段階的に保護を図るべきである	53.7	49.6	57.9	47.4	58.9	52.8	52.0	59.4	52.9	56.9	50.0
3 希少野生動植物を保護すべきとは思わない	2.5	2.9	2.1	4.6	1.0	2.4	1.3	3.1	2.3	2.8	2.6
4 その他	0.8	1.2	0.4	2.0	0.0	0.8	1.3	1.0	0.0	1.4	0.6
5 わからない	2.7	2.5	2.9	2.0	2.9	3.1	1.3	2.1	3.4	2.8	3.2
無回答	0.6	0.4	0.8	0.7	0.5	0.8	2.7	0.0	0.0	0.0	0.6

問17 外来種とは、アライグマやオオキンケイギクなど、本来は国内もしくは県内にいない野生動植物が、人間活動によって海外もしくは県外から持ち込まれ野外に放たれたものをいいます。こうした外来種について、あなたはどのように考えていますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 外来種による影響を感じており、野外へのむやみな放逐や植栽などは避けるべきである	76.7	76.6	76.9	71.7	80.2	77.2	72.0	66.7	78.2	81.9	82.1
2 外来種について知っているが、存在することを悪いことと思わない	6.0	7.8	4.1	7.9	5.8	3.9	6.7	9.4	6.9	4.2	3.8
3 外来種を普段の生活において意識したことはない	13.6	11.5	15.7	15.1	11.6	15.0	18.7	19.8	13.8	11.1	8.3
4 その他	2.5	3.3	1.7	3.3	1.4	3.1	0.0	3.1	0.0	2.8	4.5
5 わからない	1.2	0.8	1.7	2.0	1.0	0.8	2.7	1.0	1.1	0.0	1.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問18 海などの水質が改善されないことや、親水空間の減少など水を取り巻く環境の変化に伴い、水と親しむ機会が減少しています。

水と親しむ機会を増やすために県は何をするべきですか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	486	244	242	152	207	127	75	96	87	72	156
1 水辺の自然環境に配慮した河川整備など、水と親しむことができる公共事業を行う	44.0	48.0	40.1	46.7	44.9	39.4	38.7	44.8	44.8	50.0	42.9
2 海、川をきれいにするため、規制を強化する	23.5	21.7	25.2	23.0	25.1	21.3	30.7	27.1	20.7	13.9	23.7
3 海、川を大事にするよう啓発や環境学習を充実する	17.7	18.4	16.9	16.4	18.4	18.1	18.7	12.5	23.0	18.1	17.3
4 海、川がどうなっているかをいろいろな指標も用いてわかりやすく紹介する	11.7	7.8	15.7	8.6	10.6	17.3	6.7	12.5	9.2	12.5	14.7
5 その他	1.6	2.9	0.4	2.6	0.0	3.1	1.3	2.1	0.0	4.2	1.3
6 今のままで十分なので、何もする必要はない	0.8	0.8	0.8	1.3	0.5	0.8	2.7	0.0	2.3	0.0	0.0
7 わからない	0.6	0.4	0.8	1.3	0.5	0.0	1.3	1.0	0.0	1.4	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平成23年度第4回県政モニターアンケート報告書

「これからの環境保全の方向性について」
平成23年12月発行
愛知県知事政策局広報広聴課
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話(052)954-6169(ダイヤルイン)

この冊子は、再生紙を使用しています。

